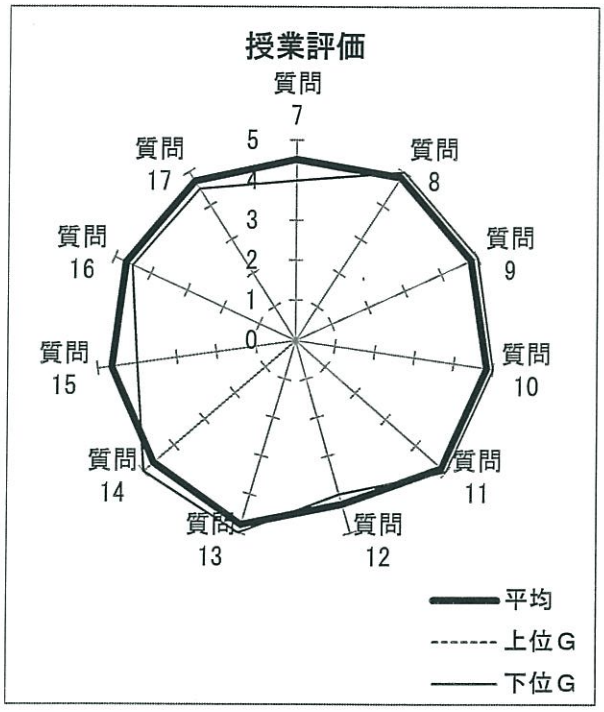
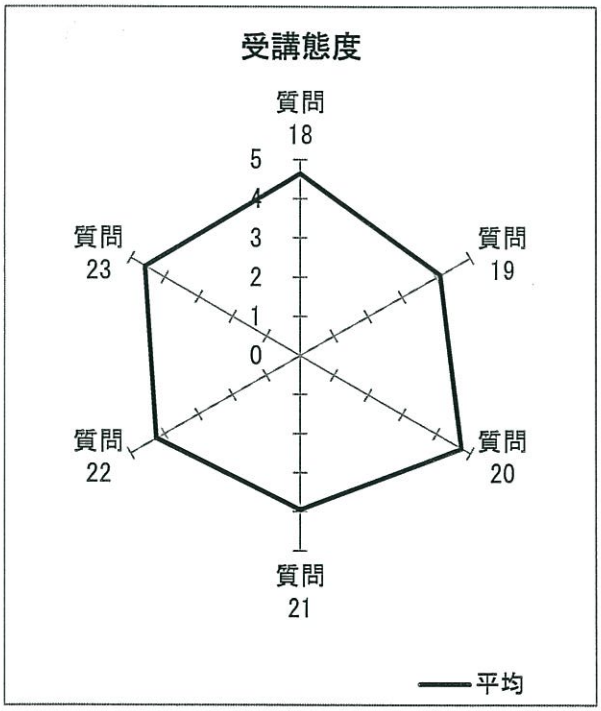
# 科目コード ６０１　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 池田 光壱 食品学Ｉ




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.5 | 4.6 | 4.0 |
| 質問 8 | 4.8 | 4.8 | 5.0 |
| 質問 9 | 4.8 | 4.8 | 5.0 |
| 質問10 | 4.8 | 4.8 | 5.0 |
| 質問11 | 4.9 | 4.9 | 5.0 |
| 質問12 | 4.3 | 4.3 | 4.0 |
| 質問13 | 4.8 | 4.8 | 5.0 |
| 質問14 | 4.7 | 4.7 | 5.0 |
| 質問15 | 4.6 | 4.7 | 4.0 |
| 質問16 | 4.7 | 4.7 | 4.5 |
| 質問17 | 4.7 | 4.7 | 4.5 |
| 平均 | 4.7 | 4.7 | 4.6 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.6 |
| 質問19 | 4.1 |
| 質問20 | 4.7 |
| 質問21 | 3.9 |
| 質問22 | 4.2 |
| 質問23 | 4.6 |
| 平均 | 4.4 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 池田光壱 | 食品学Ⅰ | 52 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果　：　教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

受講態度「上位グループ」および「下位グループ」の度数がそれぞれ「49」と「2」であることを踏まえると、全体的に授業評価は良好と考えられる。しかしながら、改善点が無いわけではない。上位Gと下位Gとの差が0.5ポイント以上であった項目について振り返り、今後の課題としたい。

＞質問7「授業の目的説明とシラバスに沿った実施」（上位G：4.6，下位G：4.0）

＞質問15「（自分は）授業を理解できたと思うか」（上位G：4.7，下位G：4.0）

→質問15と質問7はお互いにリンクしていると考えられる。すなわち、授業の内容を理解できない部分があれば、当然、授業の内容がシラバスに沿っているかも判断できないと思われる。さらに、積極的に授業に向き合えていない学生は、「理解が難しい」⇔「面白くない」⇔「受講態度が良好でない」という構図になっている可能性が高い。従って、より興味を喚起するようなコンテンツを用意する必要があると考えられる。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

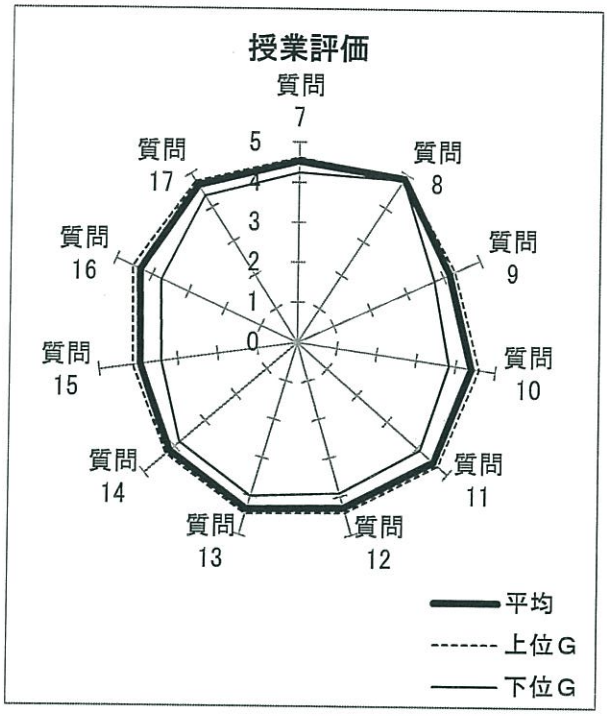
2019年度担当予定科目名：　食品学Ⅰ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

食品学Ⅰで学ぶ内容はベースとして「化学」の知識が必要である。授業内容に興味が持てなかったり、理解が難しいのは、高校で学ぶ「化学」の知識が不十分である可能性が高い。従って、食品学の教科書の内容を読み解くための「化学」の知識を身につけるために、丁寧に時間をかけて教えていこうと考えている（化学のリメディアル教育）。

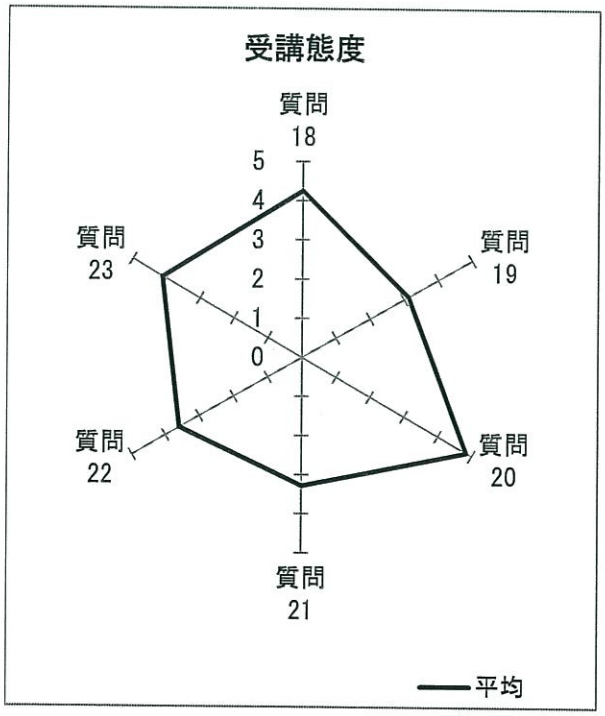
# 科目コード ６０２　（２０１８年度 前期）

健康生活学部　食生活健康学科　久木野 睦子　調理学




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.5 | 4.6 | 4.3 |
| 質問 8 | 4.9 | 4.9 | 4.8 |
| 質問 9 | 4.2 | 4.3 | 3.8 |
| 質問10 | 4.4 | 4.6 | 3.8 |
| 質問11 | 4.5 | 4.7 | 4.1 |
| 質問12 | 4.3 | 4.4 | 3.9 |
| 質問13 | 4.3 | 4.5 | 4.0 |
| 質問14 | 4.2 | 4.3 | 3.8 |
| 質問15 | 4.0 | 4.1 | 3.4 |
| 質問16 | 4.3 | 4.5 | 3.8 |
| 質問17 | 4.7 | 4.8 | 4.3 |
| 平均 | 4.4 | 4.5 | 4.0 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.3 |
| 質問19 | 3.1 |
| 質問20 | 4.9 |
| 質問21 | 3.3 |
| 質問22 | 3.6 |
| 質問23 | 4.1 |
| 平均 | 3.9 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 久木野　睦子 | 調理学 | 49 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

全体的に見ると平均値は昨年度とほぼ同様の結果であったが、今年度は上位グループと下位グループの差が昨年よりは小さくなっていた。特に例年低い評価となりがちな質問9の「教員の話し方」については、昨年の下位グループでは2.5だったのが、今年度は3.8となり、平均も3.8から4.2と良くなった。ただ、今年度は学生の受講態度が昨年より低い結果となり、昨年は平均が4.3であったのが今年度は3.9であった。特に質問19「授業内容や到達目標を理解して取り組んだか」は昨年4.0だったのが今回は3.4、質問21「授業の予習・復習を行ったか」は昨年4.1から今年は3.3となっていた。質問15「授業を理解できたと思うか」の結果が最も悪く、下位グループでは3.4、上位グループでも4.1であったことからも、予習・復習の必要性をもっと強調して取り組ませておくべきだったと感じた。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

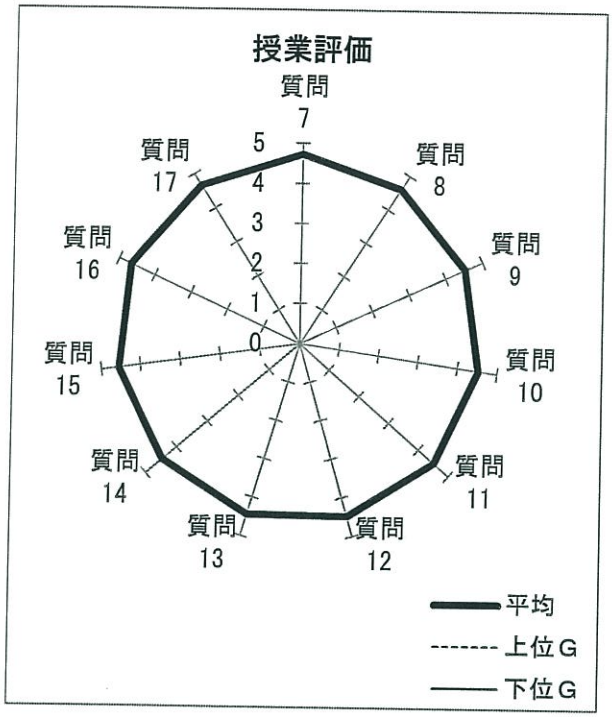
2019年度担当予定科目名：調理学

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

現在の授業は、スライドを用いて講義をしているが、これは耐震工事のためこれまでの教室が使用できなくなったからで、これまでは黒板に板書する形式で授業を進めていた。耐震工事終了後は、以前のやり方に戻すつもりでいたが、現在やっとスライドを使用する方法で軌道に乗ってきたので、次年度も今年度と同様にやっていきたいと考えている。また、次年度は、最初に「授業内容や到達目標を理解すること」、「毎週、授業の予習・復習を行うこと」を強調して伝え、授業の理解度を上げることができるように留意したい。

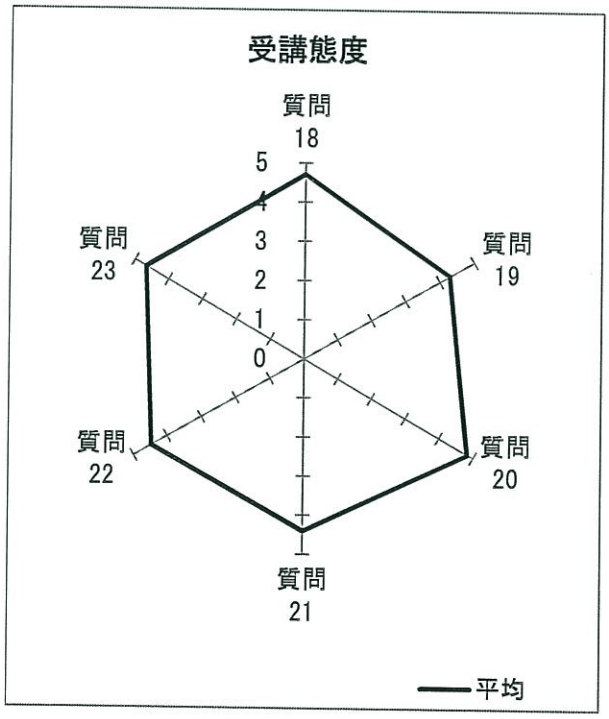
# 科目コード ６０３　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 久木野 睦子 調理学実習Ⅰ




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 質問 8 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |
| 質問 9 | 4.5 | 4.5 | #DIV/0! |
| 質問10 | 4.5 | 4.5 | #DIV/0! |
| 質問11 | 4.5 | 4.5 | #DIV/0! |
| 質問12 | 4.5 | 4.5 | #DIV/0! |
| 質問13 | 4.4 | 4.4 | #DIV/0! |
| 質問14 | 4.5 | 4.5 | #DIV/0! |
| 質問15 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |
| 質問16 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 質問17 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 平均 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.7 |
| 質問19 | 4.3 |
| 質問20 | 4.8 |
| 質問21 | 4.4 |
| 質問22 | 4.5 |
| 質問23 | 4.7 |
| 平均 | 4.6 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 久木野　睦子 | 調理学実習Ⅰ | 47名 |

2017年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

今回の結果では、上位グループと下位グループの差が見られず、全質問の平均も4.6と、これまでの調査において最も良い結果となった。特に例年、低い評価となる質問9の「教員の話し方」については、昨年の3.6から4.5になり、他の質問と同程度の評価結果であった。他にも昨年は4以下であった質問11「教員の説明のわかりやすさ」は3.9から4.5に、質問13「質問機会の確保と質問への適切な反映」は3.8から4.4に、質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」は3.8から4.5と良くなってことに安堵している。ただ、どのように改善したかと言うと、これまでと同様の注意を心がけたつもりであり、今年度の受講学生の受け止め方にその理由があったのではないかとも考えられる。具体的には、学生の受講態度を見ると、今年度は平均が4.6で、昨年度の4.3より高かった。特に質問19「授業内容や到達目標を理解して取り組んだか」は昨年3.5だったのが今回は4.3、質問21「授業の予習・復習を行ったか」は昨年3.9から今年は4.4にそれぞれ上昇しており、学生自身の受講態度が、教員の授業評価を左右しているのではないかと感じた。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

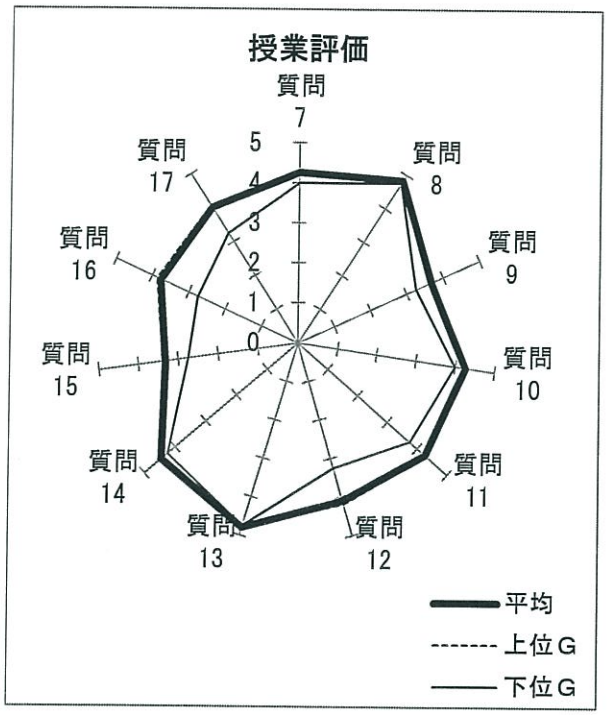
2019年度担当予定科目名：調理学実習Ⅰ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

本実習は同時期に開講している「調理学」と内容を連動させて指導しており、今年度は実習の際にも講義で使用しているテキストを持参することを強調していた。今年度の評価が比較的良かったことから、次年度も講義と相補的に理解を深めさせるように努めたい。また、今年度の結果を参考に、次年度は最初に「授業内容や到達目標を理解すること」、「毎週、授業の予習・復習を行うこと」を強調して伝え、積極的に実習の取り組むことができるように指導したい。

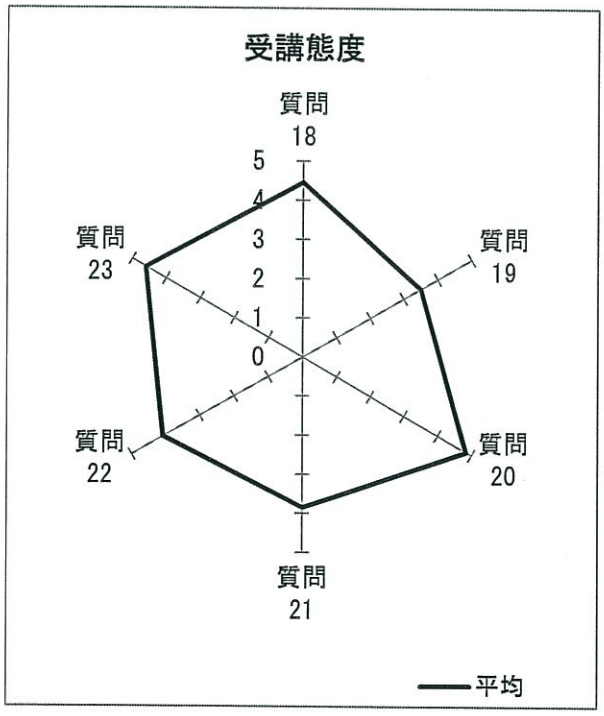
# 科目コード ６０４　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 吉井 学 化学




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.3 | 4.3 | 4.0 |
| 質問 8 | 4.8 | 4.8 | 4.8 |
| 質問 9 | 3.7 | 3.7 | 3.3 |
| 質問10 | 4.3 | 4.3 | 4.0 |
| 質問11 | 4.3 | 4.3 | 3.8 |
| 質問12 | 4.1 | 4.2 | 3.3 |
| 質問13 | 4.8 | 4.8 | 4.8 |
| 質問14 | 4.5 | 4.5 | 4.3 |
| 質問15 | 3.3 | 3.4 | 2.8 |
| 質問16 | 3.8 | 3.9 | 2.8 |
| 質問17 | 4.0 | 4.1 | 3.3 |
| 平均 | 4.2 | 4.2 | 3.7 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.5 |
| 質問19 | 3.5 |
| 質問20 | 4.8 |
| 質問21 | 3.8 |
| 質問22 | 4.1 |
| 質問23 | 4.6 |
| 平均 | 4.2 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 吉井　学 | 化学 | ４７名 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

本科目は1年生の科目であり、管理栄養士には必須の生化学を学ぶにあたって基礎をなす科目である。しかし、高校において化学を履修しなかった学生が多く、履修した学生でも化学に対して不得手意識が強い学生がほとんどである。理解してもらうには相当の時間を必要とすることは明らかである。

今回の分析では質問９の教員の話し方における評価が前年度の4.0から3.7へと低下した。前年は改善できたと考えられたが今年度また早口になっていたようである。また、初めて耳にする科学用語や類似語がかなり多いから聞き取れない可能性が大きいと考える。さらに、講義で使用する語句の意味が理解できない学生がやや多いようである。今後は語句の解説にも今以上に時間を掛けていく必要があると考える。化学用語は暗記していく必要があるため，暗記のための用語解説に補講が必要であると考え、希望者に対して授業後に補習を行った。その結果、わかり易いと興味を持つ学生も若干増えた。しかし、下位グループでは不得手意識が高く補習に参加しないで早くかえってしまう。その影響か下位グループの１５と１６の授業の理解と興味・関心・意欲の面では2.8と学習面の格差が出てしまっている。今後の補習の実施が必要であると思われる。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

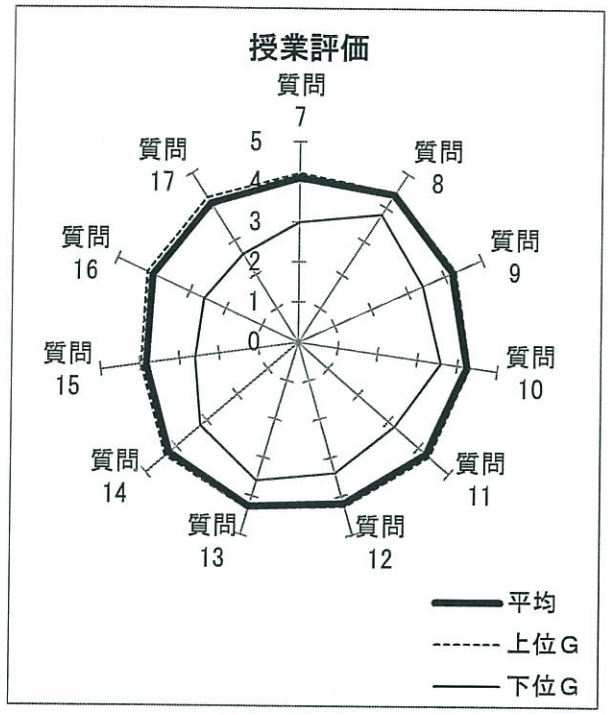
2019年度担当予定科目名：＿化学＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

今年度の授業と同様に学生が質問をしやすい環境を整備する。具体的にはグループ学習の推進である。化学の用語が理解できない学生は、質問したくても周囲の学生の目を気にして質問出来なかったり、解らない授業内容の把握すらできない学生が存在している。そこでグループを形成することで、グループ内で分からないのは自分だけではないということを気付かせたいと考える。また、予習・復習をグループで行わせることで学習時間内は集中することを体得させたい。グループ内で解らない事項や語彙について調べること。そして質問することを習慣づけたい。さらに授業後の補習への参加者を増やす努力を行う。アンケートにおける下位グループ及び成績低迷者について補習と面談を実施する。

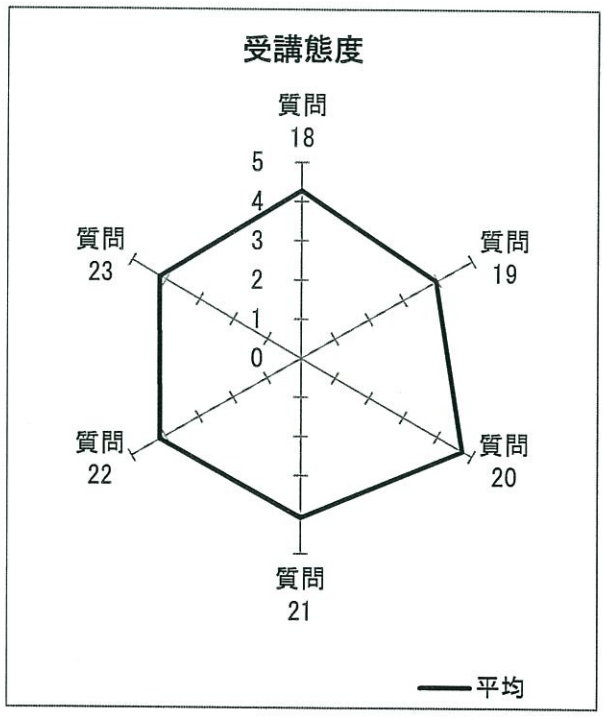
# 科目コード ６１０　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 吉井 学 病態生理･生化学




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.1 | 4.2 | 3.0 |
| 質問 8 | 4.4 | 4.4 | 3.8 |
| 質問 9 | 4.2 | 4.3 | 3.4 |
| 質問10 | 4.3 | 4.3 | 3.6 |
| 質問11 | 4.3 | 4.4 | 3.2 |
| 質問12 | 4.2 | 4.3 | 3.4 |
| 質問13 | 4.3 | 4.3 | 3.6 |
| 質問14 | 4.3 | 4.4 | 3.2 |
| 質問15 | 3.8 | 4.0 | 2.6 |
| 質問16 | 4.0 | 4.2 | 2.6 |
| 質問17 | 4.1 | 4.3 | 2.6 |
| 平均 | 4.2 | 4.3 | 3.2 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.3 |
| 質問19 | 4.0 |
| 質問20 | 4.7 |
| 質問21 | 4.1 |
| 質問22 | 4.2 |
| 質問23 | 4.2 |
| 平均 | 4.2 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 吉井　学 | 病態生理・生化学 | ５３名 |

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

本科目は２年生の科目であり、１年生で履修した生化学科目の延長と位置付けられる科目である。また、人体の構造と機能についての知識が不可欠の科目でもある。しかし、高校において化学や生物を履修しなかった学生の多くが１年次履修の化学，生化学，人体の構造と機能等の記憶内容が希薄である。さらに、この一連の科目の内容は管理栄養士国家試験に必須であるが、理解するための語彙が非常に多く、高校まででは習得していないものが多い。そのため、科目が重要であることは理解しているが、内容を理解するための努力には至っていないところが多いようである。不得手意識が強い学生がほとんどである。理解してもらうには相当の時間を必要とする。

質問１５の授業を理解できたかの評価平均が昨年より０.３ポイント程上昇した。しかし、まだ上位Ｇと下位Ｇの数値が４.３～３.２と格差は縮小した。また，質問１６の興味・関心・意欲を引き出したかの平均値は４.２であり，これも０.２ポイント上昇した。格差は４.２～２.６とまだ広いが昨年よりは縮小している。これは前述した１年次履修の化学，生化学，人体の構造と機能等の科目における個人資質の格差が反映されたものであると考える。今年度も授業後に要点生理の時間を取り、さらに、メールによる質問についても常時受け付けて来た。おかげで学生の興味・関心・意欲を示す学生が増加しているが，全員の関心が上昇するまでには至っていないのが現状である。学生にとっては人体の構造と機能関係の科目が一番の苦手科目のようである。これは使用される専門用語の多さと複雑さが原因であると考える。また、疾病側から逆に代謝系を推論できるようなディスカッション学習を導入しようとしたが学生間の使える専門用語や基礎知識に格差がありすぎるため完全には履行できていない。

Ⅱ．2019 年度に向けての取り組み

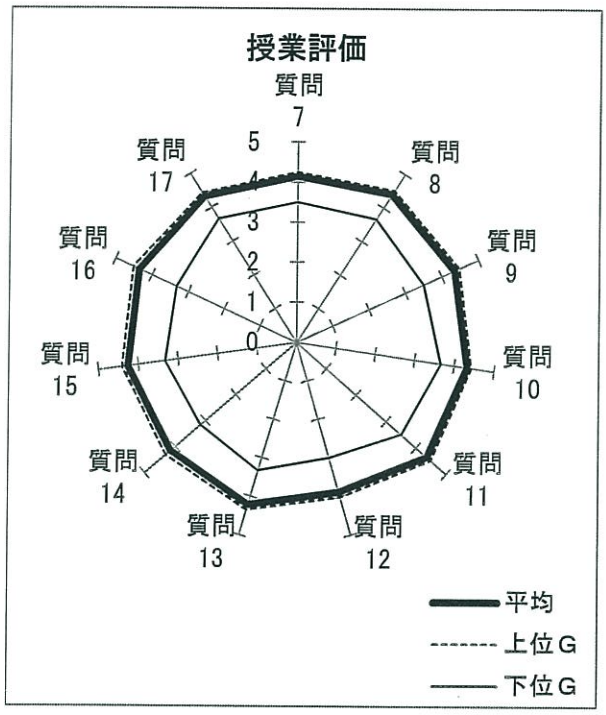
2019 年度担当予定科目名：　病態生理・生化学

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

今年度同様に学生が質問をしやすい環境を整備する。具体的にはグループ学習の推進である。人体の機能や生化学および病気に関する用語が理解できない学生は、質問したくても周囲の学生の目を気にして質問出来なかったり、解らない授業内容の把握すらできない学生が存在している。そこで２名～３名グループを形成し、提議されたテーマや問題点に対して討論形式で授業を進行させることで、グループ内で分からないのは自分だけではないということを気付かせたい。また、予習・復習をグループで行わせることで学習時間内は集中することを体得させたい。グループ内で解らない事項や語彙について調べること。そして質問することを習慣づけたい。さらに，疾病側から逆に代謝系を推論できるようなディスカッション学習を多くすると共に、少人数制の専門用語と基礎知識のための補習を導入しようと考えている。

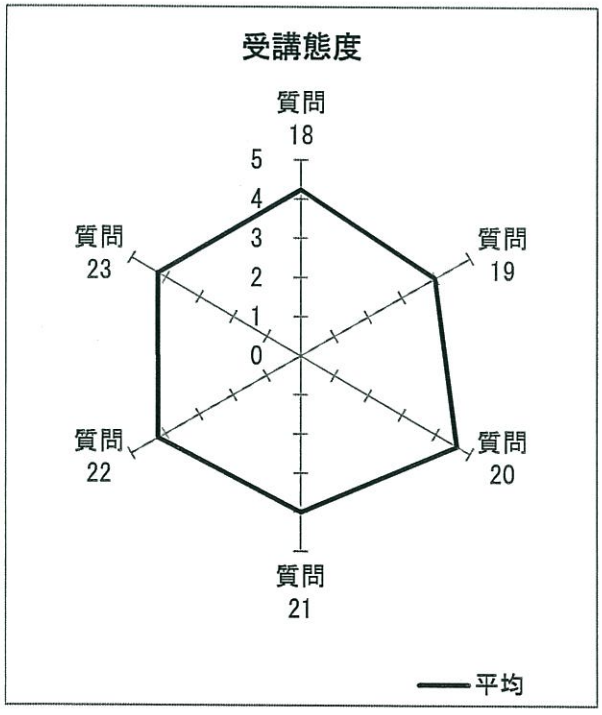
# 科目コード ６１２　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 池田 光壱 食品学Ⅱ




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.2 | 4.3 | 3.5 |
| 質問 8 | 4.4 | 4.5 | 3.7 |
| 質問 9 | 4.4 | 4.5 | 3.5 |
| 質問10 | 4.3 | 4.4 | 3.7 |
| 質問11 | 4.4 | 4.5 | 3.5 |
| 質問12 | 3.9 | 4.0 | 3.0 |
| 質問13 | 4.2 | 4.4 | 3.3 |
| 質問14 | 4.2 | 4.3 | 3.2 |
| 質問15 | 4.3 | 4.4 | 3.3 |
| 質問16 | 4.4 | 4.5 | 3.3 |
| 質問17 | 4.3 | 4.4 | 3.7 |
| 平均 | 4.3 | 4.4 | 3.4 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.2 |
| 質問19 | 4.0 |
| 質問20 | 4.6 |
| 質問21 | 4.0 |
| 質問22 | 4.2 |
| 質問23 | 4.2 |
| 平均 | 4.2 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 池田光壱 | 食品学Ⅱ | 53 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

受講態度「上位グループ」および「下位グループ」の度数がそれぞれ「39」と「6」であることを踏まえると、全体的に授業評価は良好と考えられる。しかしながら、上位Ｇと下位Ｇとの差は0.7～1.2と大きかった。下位Ｇは授業評価アンケートに対しても消極的である可能性が考えられるが、それも含めて下位 Ｇ の学生は「授業が面白くない」と感じていると思われる。「6」という小さい数字ではあるが、ゼロではないので次年度に向けてさらに工夫・改善する必要がある。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

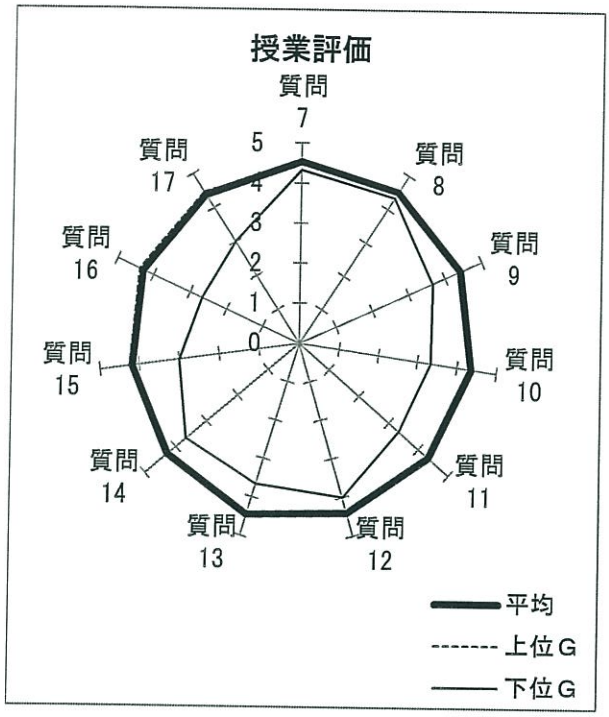
2019年度担当予定科目名：食品学Ⅱ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

食品学Ⅱは積み重ねの科目であり、「食品学Ⅰ」で学ぶ内容がベースとなる。下位Ｇは「食品学Ⅰ」の理解が不十分なままである可能性が高い。従って、適宜、食品学Ⅰの学習内容を振り返り、食品学Ⅱの授業の中で復習も重点的に実施していく。

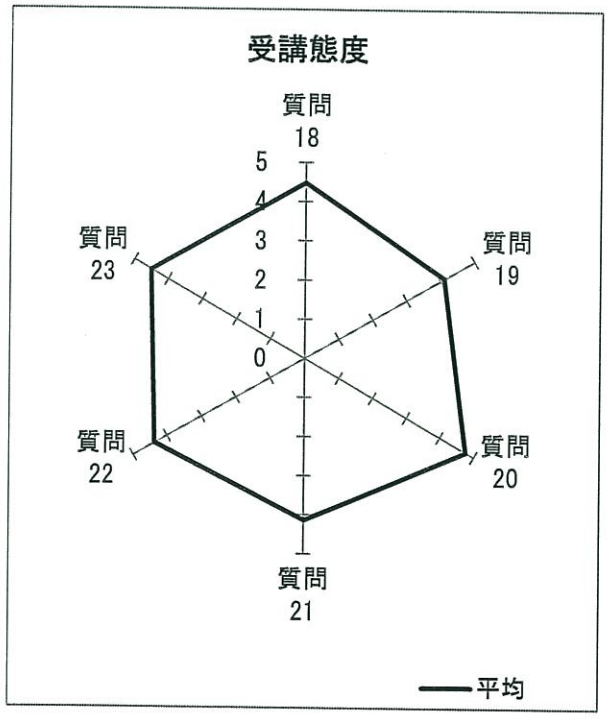
# 科目コード ６１３　（２０１８年度 前期）

## 健康生活学部 食生活健康学科 藤 希望 食事設計演習




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.5 | 4.6 | 4.3 |
| 質問 8 | 4.5 | 4.5 | 4.3 |
| 質問 9 | 4.4 | 4.5 | 3.7 |
| 質問10 | 4.4 | 4.4 | 3.3 |
| 質問11 | 4.3 | 4.4 | 3.3 |
| 質問12 | 4.4 | 4.4 | 4.0 |
| 質問13 | 4.5 | 4.5 | 3.7 |
| 質問14 | 4.3 | 4.3 | 3.7 |
| 質問15 | 4.2 | 4.3 | 3.0 |
| 質問16 | 4.3 | 4.4 | 2.7 |
| 質問17 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 平均 | 4.4 | 4.4 | 3.5 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.5 |
| 質問19 | 4.1 |
| 質問20 | 4.8 |
| 質問21 | 4.1 |
| 質問22 | 4.4 |
| 質問23 | 4.5 |
| 平均 | 4.4 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 藤　希望 | 食事設計演習 | 53 名 |

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

本科目は昨年度も担当した科目であり、昨年度の反省を踏まえた授業を実施するように努めた。具体的には、本科目は調理実習が目的ではなく、献立作成の基礎力を習得することにあるため、昨年より講義や献立作成に当てる時間を増やし、学生の理解を促すように心がけた。

結果として、全体の評価は昨年よりも 0.3 上昇し、昨年度の反省を活かして授業を行った効果が多少はみられたのではないかと考える。しかし、時間を増やしたにも関わらず、効果が小さかったことを考えると、授業の進め方にまだ改善すべき点が多いと思われる。また、昨年よりも受講態度上位学生と下位学生で評価の差が大きい項目がみられたため、その項目について検討した。

１つ目は、「(自分は) 授業を理解できたと思うか」という項目で、1.3 差がみられた。献立作成は個人作業であり、教員１名で多数の学生を見るので目が行き届かない部分があったのではないかと感じる。個人作業ではあるが、グループ内でお互いの献立について問題点や改善策などをディスカッションする時間を設け、学生自身の理解が深まる工夫も必要であったと考える。

２つ目は、「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」という項目で、1.7 も差がみられた。献立作成は、設定した基準に合うようバランスよく献立を考えなければならず、苦痛と感じる学生も少なくない。そのため、ただ献立を立てるだけでなく、献立作成を習う最初の授業として、献立作成がより楽しく感じられ、学生が興味を持つことができるように授業を進めていく必要があったと思う。

３つ目は、「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」という項目で、1.5 差がみられた。献立作成は栄養士の基礎であるため、授業を通して、食品や料理等に関する献立作成上必要な知識を増やしていかなければならない。しかし、食材の旬や調理方法などもすでに知っていることを前提にした授業の進め方となっていたと感じる。そのため、事前に知識を確認するための確認テストなどを実施し、学生がどれくらいの知識を有しているのかを確認した上で、不足部分は授業内で補うことができるよう、配慮すべきであったと考える。

Ⅱ．2019 年度に向けての取り組み

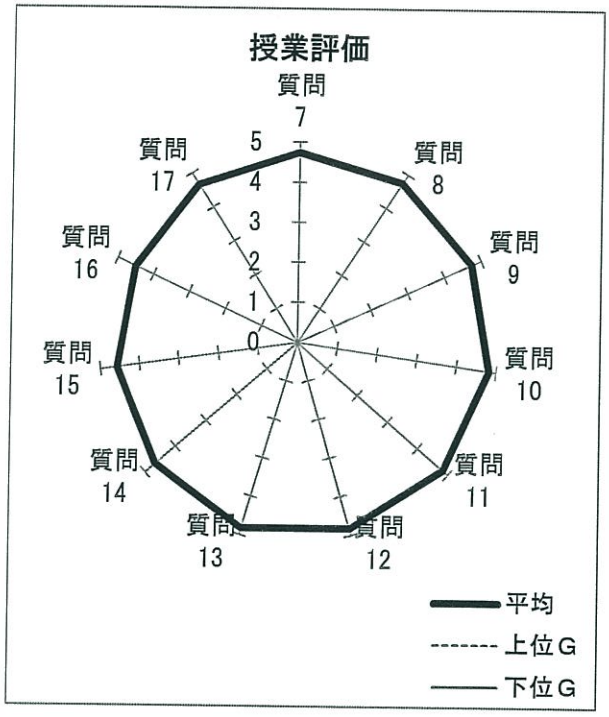
2018 年度担当予定科目名： 食事設計実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

献立作成は栄養士業務の基礎中の基礎であるため、きちんとした献立が立てられるスキルを学生のうちから身につけておく必要がある。限られた時間の中で、献立作成に必要な知識すべてを習得するのは難しいが、より効果的な授業となるよう、次のような取り組みを実施したいと考える。①授業開講時に確認テストを行い、学生の知識レベルを確認する。②定期的に小テストを行い、学生の理解度を確認する。③グループワークを取り入れることで、お互いに教え合い、理解を深められるようにする。

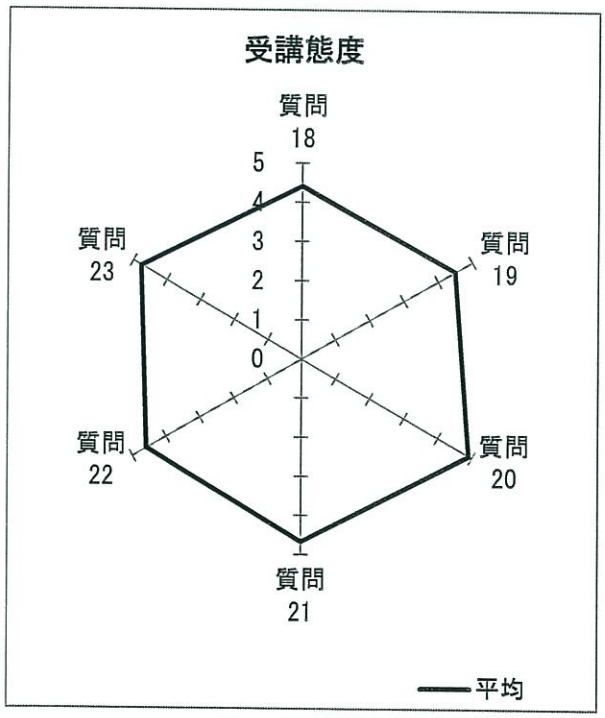
# 科目コード ６１４　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 阿部 麗 身体運動のメカニズム




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問 8 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問 9 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問10 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問11 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問12 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問13 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問14 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 質問15 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |
| 質問16 | 4.5 | 4.5 | #DIV/0! |
| 質問17 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 平均 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.4 |
| 質問19 | 4.5 |
| 質問20 | 4.9 |
| 質問21 | 4.7 |
| 質問22 | 4.6 |
| 質問23 | 4.8 |
| 平均 | 4.6 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 阿部　麗 | 身体運動のメカニズム | 13 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

本講義は、健康運動実践指導者を志す学生が学ぶ選択必修科目であるため、例年、受講態度の平均値が高い傾向にあるが、今回は4.6と例年に比べるとやや低い値であった。特に、質問18については4.4とやや低い値を示した。しかしながら、内訳を確認すると、「そう思う、どちらかといえばそう思う」が91.7%、「どちらともいえない」が8.3%であったため、例年通り、受講態度は概ね良かったと考えられる。

授業評価については、4.7と概ね良い評価であった。質問15「授業理解」が4.6、質問17「知識・技術・理論等の習得への有用性」が4.7と他項目に比べやや低い値を示したが、受講者全員が「そう思う、どちらかといえばそう思う」を選択していた。一方で、質問14「学生の理解度の確認と授業へ反映」が4.7、質問16「興味・関心・意欲」が4.5であったが、いずれも「どちらともいえない」の回答が8.3%であった。本講義は、実践指導者養成科目であるため、最低でも「どちらかといえばそう思う」まで受講者の理解を高めなければいけない科目であると考えている。よりわかりやすい授業を展開できるよう、受講者が連想しやすい身近な動作例や比喩表現の数を増やせるよう努めたい。また、教材を活用したアクティブラーニングを実施する時期を工夫することで、より理解を深めることのできる授業構成にしたい。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

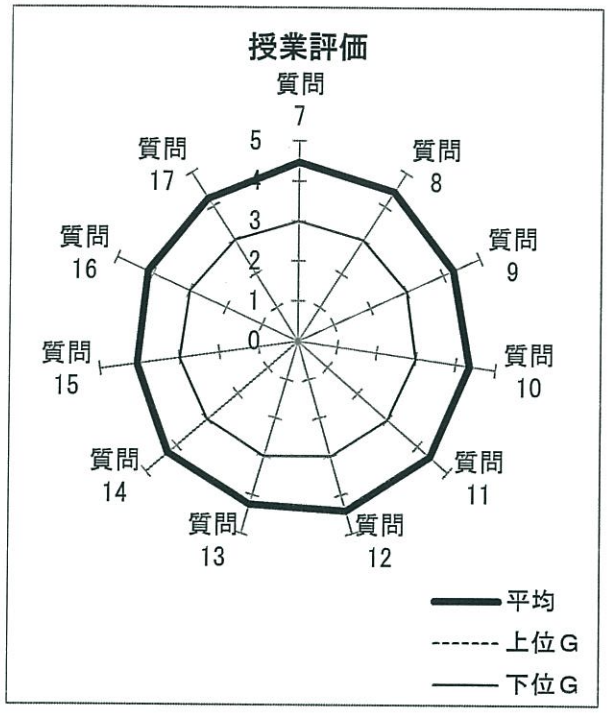
2019年度担当予定科目名：身体運動のメカニズム

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

Ⅰ．分析と評価の下線部について取り組んでいきたい。

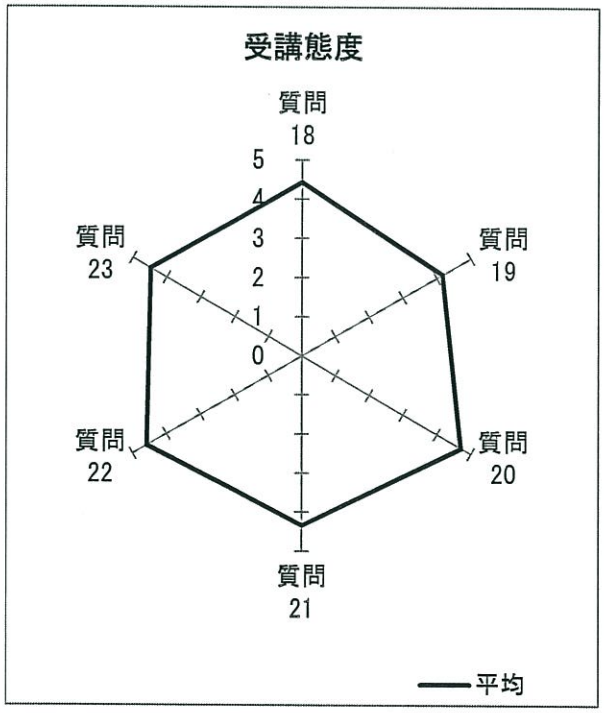
# 科目コード ６１５　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 栄養学実験




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.5 | 4.5 | 3.0 |
| 質問 8 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 質問 9 | 4.3 | 4.3 | 3.0 |
| 質問10 | 4.4 | 4.4 | 3.0 |
| 質問11 | 4.4 | 4.4 | 3.0 |
| 質問12 | 4.4 | 4.4 | 3.0 |
| 質問13 | 4.2 | 4.3 | 3.0 |
| 質問14 | 4.3 | 4.3 | 3.0 |
| 質問15 | 4.1 | 4.1 | 3.0 |
| 質問16 | 4.2 | 4.2 | 3.0 |
| 質問17 | 4.2 | 4.3 | 3.0 |
| 平均 | 4.3 | 4.3 | 3.0 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.4 |
| 質問19 | 4.2 |
| 質問20 | 4.7 |
| 質問21 | 4.3 |
| 質問22 | 4.6 |
| 質問23 | 4.5 |
| 平均 | 4.5 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 上江洲香代子 | 栄養学実験 | 53 名 |

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

授業評価はほぼ昨年同様である、上位グループの評価はそれほど悪くはないが、説明や進め方を僅かに改善しながら進めたにも関わらず、特に下位グループの評価が思わしくない。学生自身の受講態度評価はそれほど低くはない。学生の自己評価をさらに高め満足度を高めていくことが教員の授業評価の上昇につながっていくと考える。

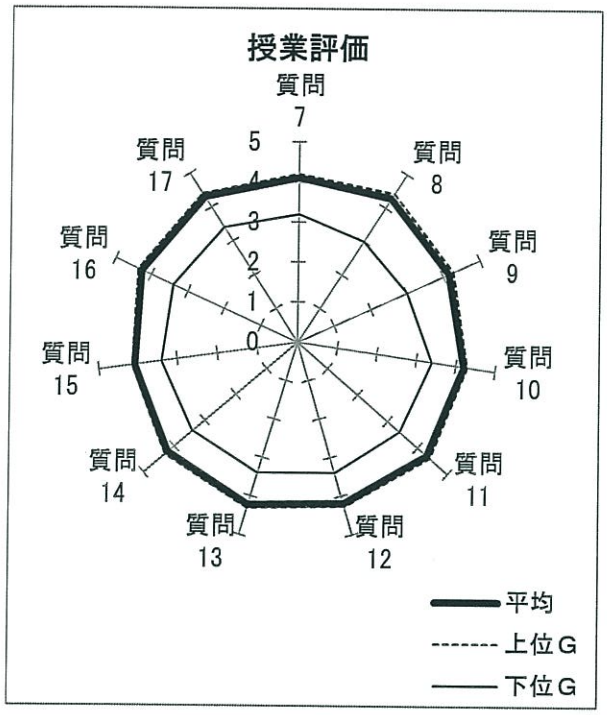
Ⅱ．2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：栄養学実験

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。実験内容と学生自身の体の状況や日常生活とを具体的に結びつけて考えるように動機づけていく。教員の話し方の改善を常に心掛ける。さらに理解を深めてもらうようにしたいと考える。一方的な授業にならないように、質疑応答などを工夫し、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進める。また授業評価の中間アンケートなども利用し、学生の理解状況や要望などを細かく把握し授業の組み立てに利用していく。

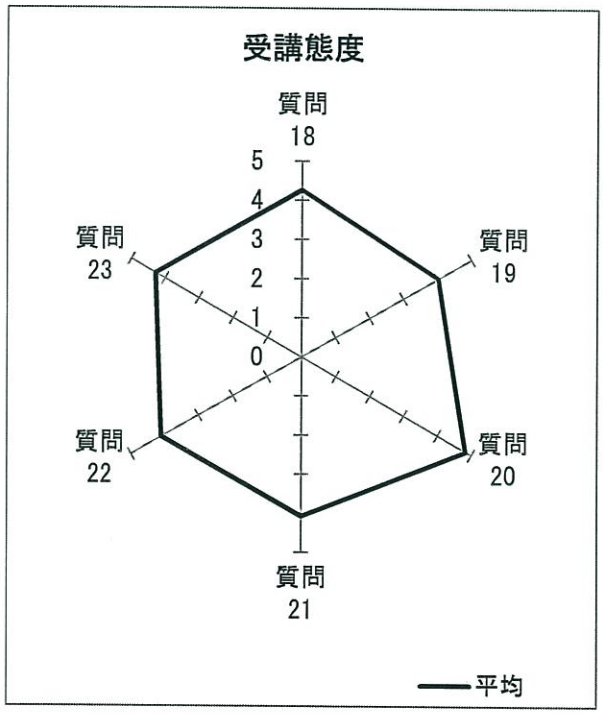
# 科目コード ６１６　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 応用栄養学Ⅰ




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.1 | 4.2 | 3.2 |
| 質問 8 | 4.3 | 4.4 | 3.0 |
| 質問 9 | 4.2 | 4.3 | 3.0 |
| 質問10 | 4.2 | 4.3 | 3.4 |
| 質問11 | 4.3 | 4.4 | 3.4 |
| 質問12 | 4.2 | 4.3 | 3.4 |
| 質問13 | 4.2 | 4.3 | 3.4 |
| 質問14 | 4.2 | 4.3 | 3.4 |
| 質問15 | 4.1 | 4.1 | 3.4 |
| 質問16 | 4.3 | 4.4 | 3.4 |
| 質問17 | 4.3 | 4.4 | 3.4 |
| 平均 | 4.2 | 4.3 | 3.3 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.3 |
| 質問19 | 4.0 |
| 質問20 | 4.8 |
| 質問21 | 4.1 |
| 質問22 | 4.1 |
| 質問23 | 4.3 |
| 平均 | 4.3 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 上江洲香代子 | 応用栄養学Ⅰ | 53名 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

授業評価はほぼ昨年同様である、上位グループの評価はそれほど悪くはないが、説明や進め方を僅かに改善しながら進めたにも関わらず、特に下位グループの評価が思わしくない。学生自身の受講態度評価はそれほど低くはない。学生の自己評価をさらに高め満足度を高めていくことが教員の授業評価の上昇につながっていくと考える

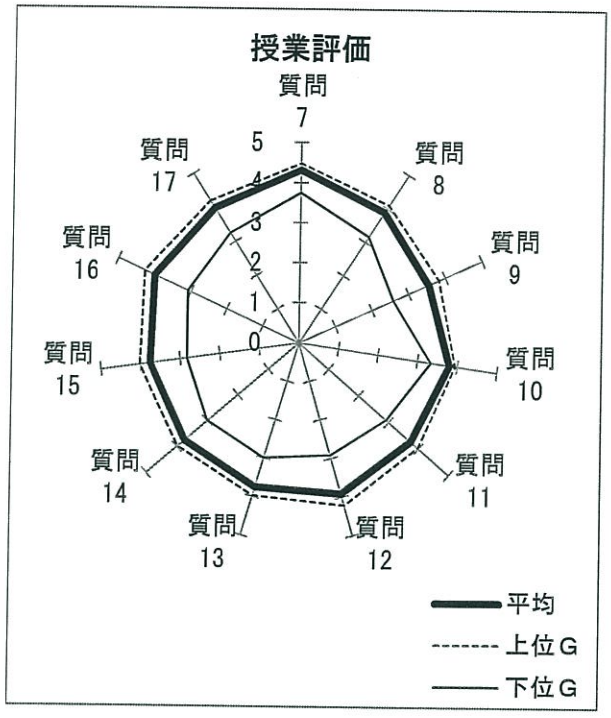
Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：応用栄養学Ⅰ

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。教員の話し方の改善を常に心掛ける。説明の仕方や板書方法を工夫する。またOHCや教材用DVDなどをこれまで以上に利用し学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考える。一方的な授業にならないように、質疑応答などを工夫し、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進める。小テストはこれまでの学生からの要望もあるので頻繁に実施して、予習・復習の動機づけとしたい。また授業評価の中間アンケートなども利用し、学生の理解状況や要望などを細かく把握し授業の組み立てに利用していく。

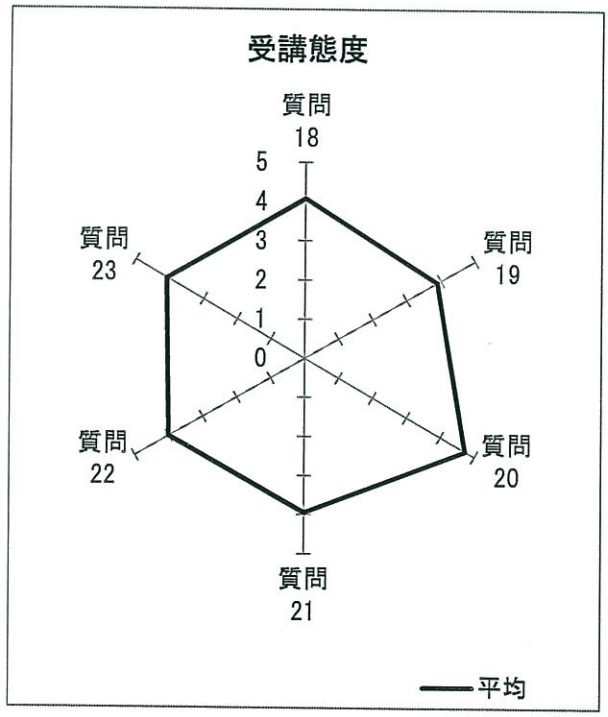
# 科目コード ６１７　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 馬場 輝實子 臨床医学概論




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.3 | 4.5 | 3.8 |
| 質問 8 | 3.9 | 4.1 | 3.2 |
| 質問 9 | 3.5 | 3.8 | 2.6 |
| 質問10 | 3.8 | 4.0 | 3.3 |
| 質問11 | 3.7 | 4.0 | 2.9 |
| 質問12 | 3.9 | 4.2 | 2.9 |
| 質問13 | 3.8 | 4.0 | 3.0 |
| 質問14 | 3.8 | 4.0 | 3.0 |
| 質問15 | 3.8 | 4.0 | 2.8 |
| 質問16 | 4.0 | 4.3 | 3.1 |
| 質問17 | 4.0 | 4.2 | 3.3 |
| 平均 | 3.9 | 4.1 | 3.1 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.1 |
| 質問19 | 3.9 |
| 質問20 | 4.7 |
| 質問21 | 3.9 |
| 質問22 | 4.0 |
| 質問23 | 4.1 |
| 平均 | 4.1 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 馬場　輝實子 | 臨床医学概論 | 53 名 |

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

残念ながら活水女子大学に勤務して最悪の評価でした。

授業に対する反応が例年に比べるとあまりよくありませんでした。

1 週間前に資料（A4　1 頁 2 スライド分）を渡し、予習復習を促し、授業では赤線を引き、例年より判りやすく話をしたつもりですが、この時代に受け入れられなかったようです。

定期試験は前年と同じ問題を出し比較してみましたが、半数は欠点。再試験では同じ問題を出すと予告していたのですが、やはり 60 点ぎりぎり。中には全く勉強していない学生もいました。

熱心な 1 割の学生のために頑張りました。

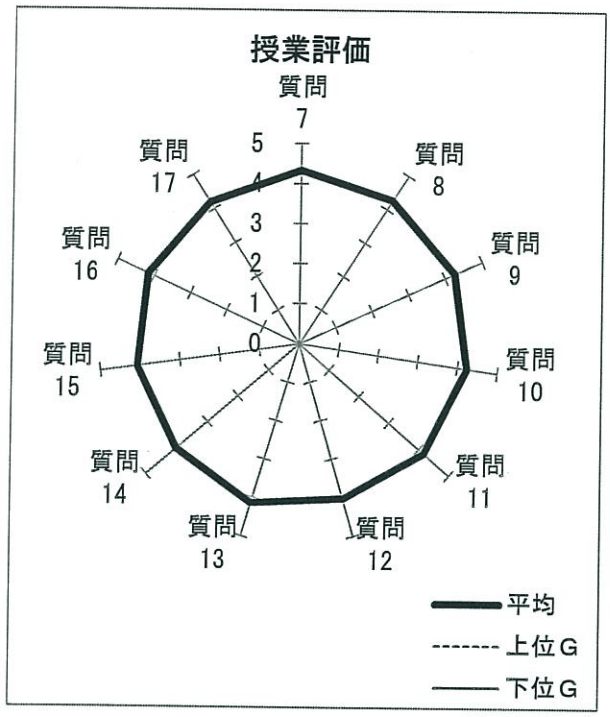
Ⅱ．2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：＿＿＿＿＿＿なし＿＿＿＿＿＿

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

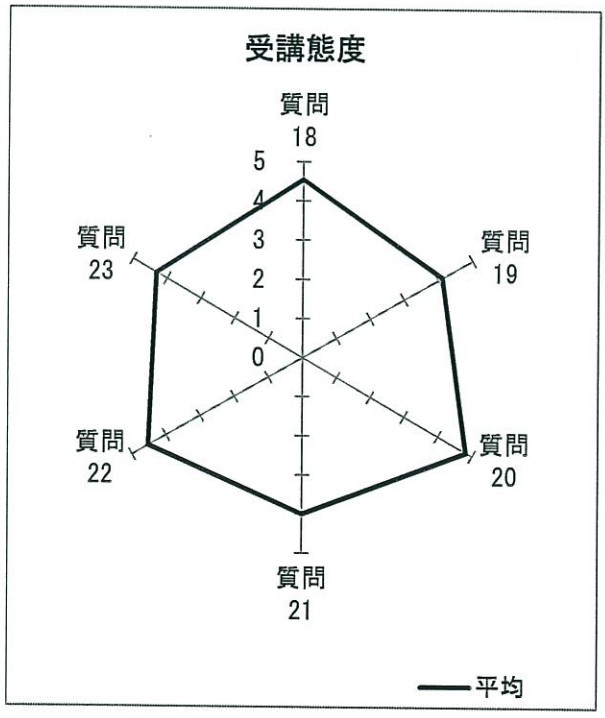
# 科目コード ６１８　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 井上 靖久 人体構造・機能実験Ｉ




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.3 | 4.3 | #DIV/0! |
| 質問 8 | 4.3 | 4.3 | #DIV/0! |
| 質問 9 | 4.3 | 4.3 | #DIV/0! |
| 質問10 | 4.2 | 4.2 | #DIV/0! |
| 質問11 | 4.2 | 4.2 | #DIV/0! |
| 質問12 | 4.0 | 4.0 | #DIV/0! |
| 質問13 | 4.1 | 4.1 | #DIV/0! |
| 質問14 | 4.0 | 4.0 | #DIV/0! |
| 質問15 | 4.1 | 4.1 | #DIV/0! |
| 質問16 | 4.2 | 4.2 | #DIV/0! |
| 質問17 | 4.2 | 4.2 | #DIV/0! |
| 平均 | 4.2 | 4.2 | #DIV/0! |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.5 |
| 質問19 | 4.1 |
| 質問20 | 4.8 |
| 質問21 | 4.0 |
| 質問22 | 4.5 |
| 質問23 | 4.3 |
| 平均 | 4.4 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 井上　靖久 | 人体構造・機能実験Ⅰ | 52名 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

人体の構造と機能についての学位門領域は従来、解剖学と生理学と呼ばれてきた。人体構造・機能実験は主に解剖学的観察と生理学的実験、観察をその範囲に含んでいる。人体構造・機能実験Ⅰでは解剖学分野では細胞学の他に組織総論、骨学を行なっている。また、生理学は主に植物機能分野に当てられる。これらはそれぞれに人体の組成・構造やその働き・機能を理解し、さらに疾病の発生機序を知る上で欠くことのできない科目である為、非常に多くの実験項目を抱えており、またその一つ一つが学生にとって大変難解である。また、人体構造・機能論の講義時間が十分とは言えず、どうしても補講的に講義形式の授業を取り入れていることも影響し、学生の負担になっていることも事実である。授業評価については授業の説明、教員の話し方、教材・機材・板書の使用説明のわかり易さ環境に対する配慮などについては4.3、以上でありまた、質問に対する配慮や対応、理解度の確認と授業への反映はともに4.1とやや低く、なかなか難しい問題である。直近の過去と同様であり、改善の余地はある。今回は、授業の理解が4.1、授業が興味・関心・意欲を引きだしたかが4.2、有用性が4.2と昨年より若干持ち直した。さらなる学生の理解の助けになるような更なる配慮の必要性を感じた。今後も実習助手と協力して授業を行って行きたい。さらに、授業環境に対する配慮や、授業への学生の興味・関心の喚起に留意したい。概ね満足すべき結果が出ており、下位グループ評価者がいなかった事は評価できるが、更なる上昇を目指して、講義科目の理解の再確認に重点をおいて、指導を徹底したい。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

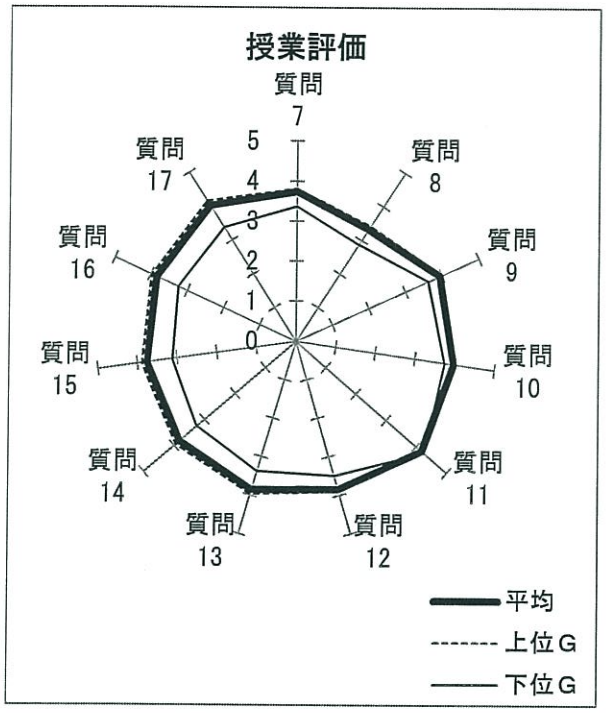
2019年度担当予定科目名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

専門基礎科目群の中でも理解の基本であり、大変な重要性を感じている。国家試験対策とも関連させながら授業を進めたい。昨年から授業と実験の無理のない有機的結合を目指して、時期や配分にも十分留意したいと考えてきた。昨年と違い今年は学生のレベルに合わせることが出来たので、あまり無理を強いることもなかったと考えられ、或る程度の改善は見られたが、これに満足せず、今後も生理学分野では日常の環境や行動にわれわれの身体がどのように反応し、恒常性を維持しているのかについて、身を持って体験することにより、興味を持って学べるようにしたい。また、解剖学分野では構造を知るだけではなく、それらの構造と機能がいかにうまく相関しているかは述べて論理的な理解の助けとなるようにつとめたい。今後は構造と機能の相関は単に肉眼解剖にとどまらず、顕微鏡組織レベル、さらには細胞レベル・分子レベルまで及んでいることを無理に理解させようとせず、心臓・循環器、呼吸器、や消化器のような重要な部位が、環境に対応して恒常性を維持しているかを学ばせたい。加えて、予習を促す方策がうまく機能しなかったので来年度は毎週のレポート提出と、学期末のワークショップ方式の発表会の前には発表方法の教育的配慮も必要である。特に、成績下位学生の支援を今後も粘り強く行いたい。このレベルの学生の増加が予測されるので、今のうちから対応を考えたい。

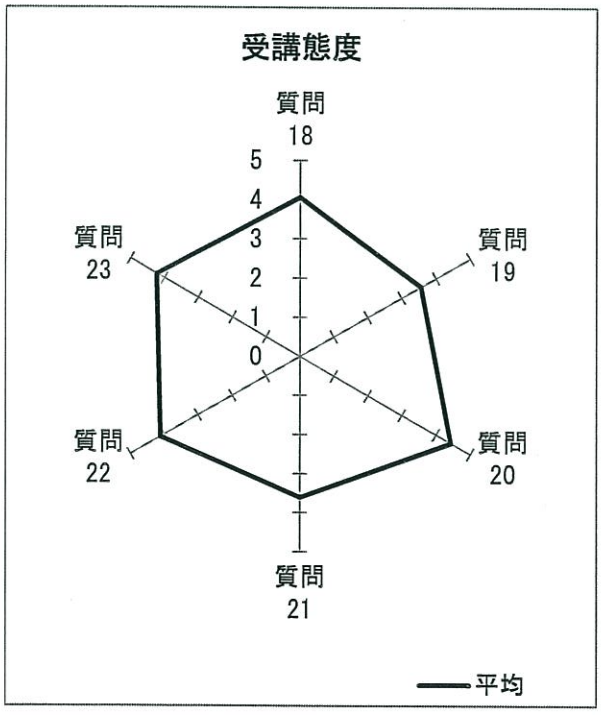
# 科目コード ６１９　（２０１８年度 前期）

健康生活学部　食生活健康学科　井上 靖久　人体構造・機能論Ⅱ




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 3.7 | 3.8 | 3.4 |
| 質問 8 | 3.3 | 3.4 | 2.9 |
| 質問 9 | 3.9 | 4.0 | 3.6 |
| 質問10 | 4.0 | 4.0 | 3.8 |
| 質問11 | 4.2 | 4.2 | 4.3 |
| 質問12 | 3.8 | 3.9 | 3.5 |
| 質問13 | 3.9 | 4.0 | 3.4 |
| 質問14 | 3.8 | 3.9 | 3.3 |
| 質問15 | 3.8 | 3.9 | 3.1 |
| 質問16 | 3.8 | 4.0 | 3.3 |
| 質問17 | 4.0 | 4.2 | 3.4 |
| 平均 | 3.8 | 3.9 | 3.4 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.1 |
| 質問19 | 3.6 |
| 質問20 | 4.4 |
| 質問21 | 3.6 |
| 質問22 | 4.1 |
| 質問23 | 4.2 |
| 平均 | 4.0 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 井上　靖久 | 人体構造・機能論Ⅱ | 52名 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

1年後期科目である人体構造機能論Ⅰでは、はじめに細胞学および分子生物学、組織学総論、発生学などの人体にかかわる生物学的基礎についての確認とスタートラインを揃える意味での基本的な講義を行う。その上で、主に体液、心臓、血管といった循環器系および呼吸器系について講義を行っている。この両者は免疫なども含めて、全身との密接な関係性を重視して講義している。人体構造・機能論Ⅱでは消化器系、泌尿器系といった吸収と排泄に関係する分野と内分泌や生殖といった、恒常性、の維持や種の保存と強く関係する分野である。これらの解剖学的知識と生理学的理解があって始めて、人体の構造と機能Ⅰで取り扱った分野が生きてくる。人体構造・機能論Ⅱではさらに神経解剖学・神経生理学他に組織各論、遺伝学を行なっている。しかしながら、これらによって人体の組成・構造やその働き・機能を理解し、さらに疾病の発生機序を知る上で欠くことのできない科目となってきている。しかし、このことは同時に、学生にとって大変難解となることを意味する。また、人体構造・機能論の講義時間が十分とは言えず、学生の負担になっていることも事実である。授業評価については授業の判り易さ、教員の話し方等が4.0個得ていることに比して、授業の理解度が4.0をわずかに下回っており、科目の性質上止むを得ざることもあろうかと思われるが、昨年より下がっており反省している。あとの授業そのものにかかわる項目も平均4.0度に届いていないものが多く大きな問題があると考える。最近の学生にはもっと解りやすい授業への更なる配慮を第一にする必要性を感じた。授業環境に対する配慮や、授業への学生の興味・関心の喚起度に対する質問に対しも問題はないと思われた。授業シラバスの検討が3.7と低いのが気になるところである。今後は指導を徹底したい。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

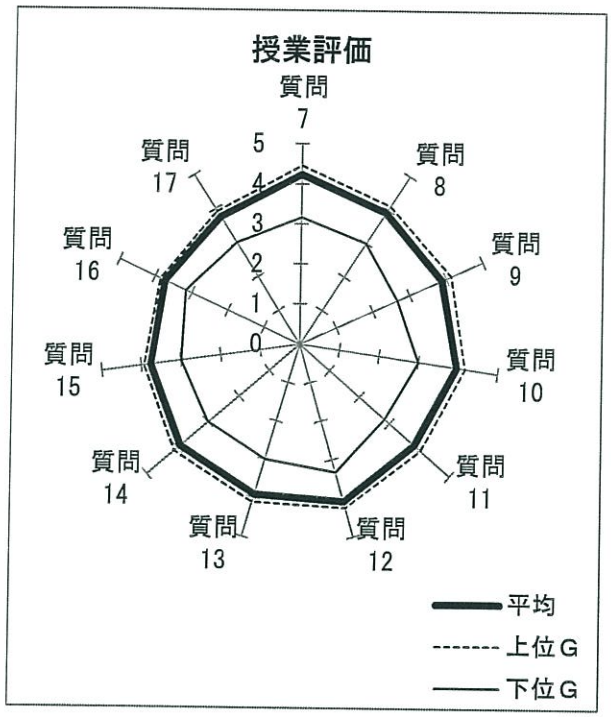
（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

他の専門基礎科目との関連も含めて重要かつ中心的な科目であると思われるので専門科目の助けとなるだけではなく、国家試験対策も念頭においていきたい。昨年より、臨床的な項目とも絡めて学生の理解の助けとなるように、またこの授業と看護実習との無理のない有機的結合を目指して、時期や配分にも十分留意したいと考えてきた。しかし必ずしも効果が上っているとは言いがたい。

次年度はさらに学生のレベルに合わせることを考えつつ、あまり無理を強いることもないように心がけたい。今後も生理学分野では日常の環境や行動にわれわれの身体がどのように反応し、恒常性を維持しているのかについて、より具体的に、興味を持って学べるようにしたい。また、解剖学分野では構造を知るだけではなく、それらの構造と機能がいかにうまく相関しているかを講義して論理的な理解の助けとなるようにつとめたい。今後は構造と機能の相関は単に肉眼解剖にとどまらず、顕微鏡組織レベル、さらには細胞レベル・分子レベルまで及んでいることは出来るだけ簡潔にしつつ、全身と各部位を繋ぐ神経や内分泌分野の講義の充実と浸透圧や酸塩基平衡などの連動する器官系について強調することで充実させたい。

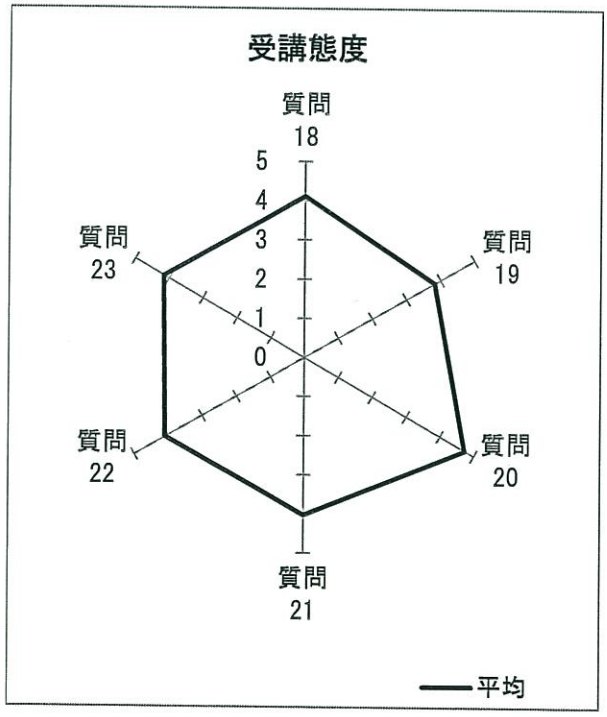
# 科目コード ６２０　（２０１８年度 前期）

健康生活学部　食生活健康学科　福田　理香　健康体力学実習（Aクラス）




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.2 | 4.5 | 3.2 |
| 質問 8 | 3.9 | 4.1 | 3.0 |
| 質問 9 | 3.9 | 4.1 | 2.7 |
| 質問10 | 4.0 | 4.2 | 3.0 |
| 質問11 | 3.8 | 4.0 | 2.8 |
| 質問12 | 4.1 | 4.3 | 3.3 |
| 質問13 | 3.9 | 4.1 | 3.0 |
| 質問14 | 3.9 | 4.1 | 3.0 |
| 質問15 | 3.8 | 3.9 | 3.0 |
| 質問16 | 3.7 | 3.9 | 3.2 |
| 質問17 | 3.8 | 3.9 | 3.0 |
| 平均 | 3.9 | 4.1 | 3.0 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.1 |
| 質問19 | 3.8 |
| 質問20 | 4.7 |
| 質問21 | 4.0 |
| 質問22 | 4.1 |
| 質問23 | 4.1 |
| 平均 | 4.2 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 福田　理香 | 健康体力学実習 | 39+37 名 |

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

健康体力学実習は A クラスと B クラスに分けて、全く同じ内容の授業を行うが、学生の取り組み状況や、授業中の雰囲気がクラスによって異なった。この差が授業評価にどのように反映するか検討するため、今回はクラス毎にアンケート実施した。

予想に反して、A・B クラスともに同じような傾向で、全体的に高評価であった。例年、2 年後期の「運動生理学」での学修内容をこの授業でいくつか扱うが、昨年度後期の半年間不在で担当できなかったため、可能な限り補足説明を行いながら実施した。しかし、例年と比較して学生の反応も鈍く、レポートもレベルの高いものとはいいがたい内容であったので、評価は低いものと予想していた。なぜこのような結果になったのか分析することは難しいが、学生自身の受講態度の評価も予想に反して高いことから、学生が授業に求めるレベルの程度の違いによるものと考えられる。いずれにせよ、今回のアンケートの結果を素直に受け入れるのは問題があるかもしれない。

Ⅱ．2019 年度に向けての取り組み

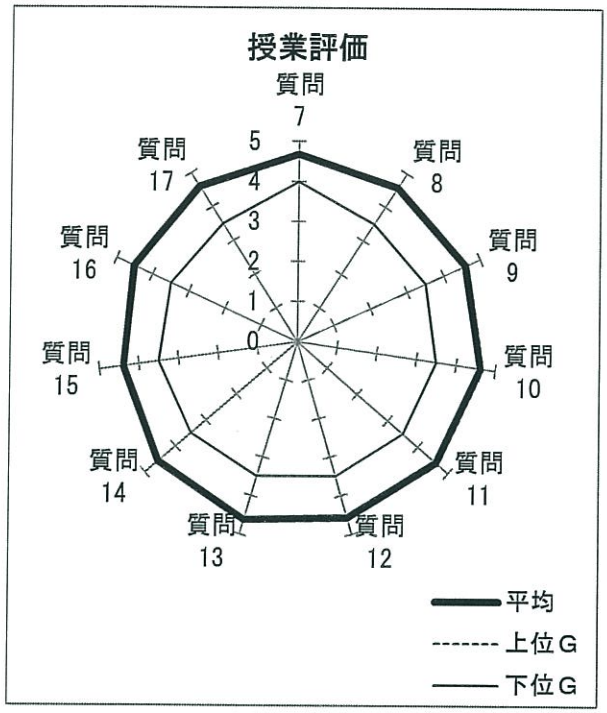
2019 年度担当予定科目名：＿＿＿健康体力学実習＿＿＿＿＿＿

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

この授業は、同時に 3 テーマ―を 2 教室で実施するため、実習中は十分な指導ができないのが悩みである。また、学生自身も時間内に終わらせることに必死で、内容を理解できていない状況が多々見受けられる。来年度は、1 クラスの人数が少ないため、これまでよりも目が行き届くと思われる。また実習後にもグループディスカッションの時間を設けて、得られたデータの理解だけでなく、一歩進んで運動・栄養の面からの健康づくりへの活かし方などについても学習できるような授業を目指していきたい。

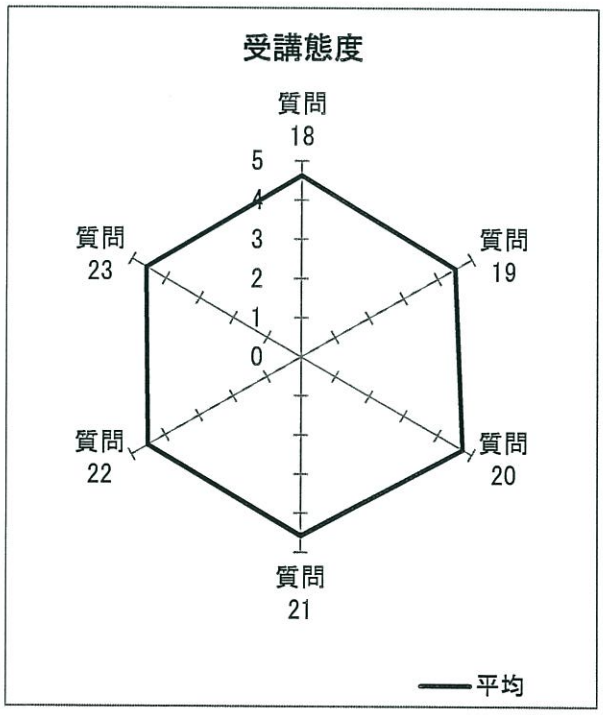
# 科目コード ６２１　（２０１８年度 前期）

健康生活学部　食生活健康学科　福田　理香　健康体力学実習(Bクラス)




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.7 | 4.7 | 4.0 |
| 質問 8 | 4.6 | 4.6 | 3.5 |
| 質問 9 | 4.6 | 4.7 | 3.5 |
| 質問10 | 4.6 | 4.7 | 3.5 |
| 質問11 | 4.6 | 4.7 | 3.5 |
| 質問12 | 4.6 | 4.6 | 3.5 |
| 質問13 | 4.6 | 4.7 | 3.5 |
| 質問14 | 4.6 | 4.6 | 3.5 |
| 質問15 | 4.4 | 4.5 | 3.5 |
| 質問16 | 4.5 | 4.6 | 3.5 |
| 質問17 | 4.6 | 4.7 | 3.5 |
| 平均 | 4.6 | 4.6 | 3.5 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.6 |
| 質問19 | 4.5 |
| 質問20 | 4.7 |
| 質問21 | 4.6 |
| 質問22 | 4.5 |
| 質問23 | 4.6 |
| 平均 | 4.6 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 福田　理香 | 健康体力学実習 | 39+37 名 |

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

健康体力学実習は A クラスと B クラスに分けて、全く同じ内容の授業を行うが、学生の取り組み状況や、授業中の雰囲気がクラスによって異なった。この差が授業評価にどのように反映するか検討するため、今回はクラス毎にアンケート実施した。

予想に反して、A・B クラスともに同じような傾向で、全体的に高評価であった。例年、2 年後期の「運動生理学」での学修内容をこの授業でいくつか扱うが、昨年度後期の半年間不在で担当できなかったため、可能な限り補足説明を行いながら実施した。しかし、例年と比較して学生の反応も鈍く、レポートもレベルの高いものとはいいがたい内容であったので、評価は低いものと予想していた。なぜこのような結果になったのか分析することは難しいが、学生自身の受講態度の評価も予想に反して高いことから、学生が授業に求めるレベルの程度の違いによるものと考えられる。いずれにせよ、今回のアンケートの結果を素直に受け入れるのは問題があるかもしれない。

Ⅱ．2019 年度に向けての取り組み

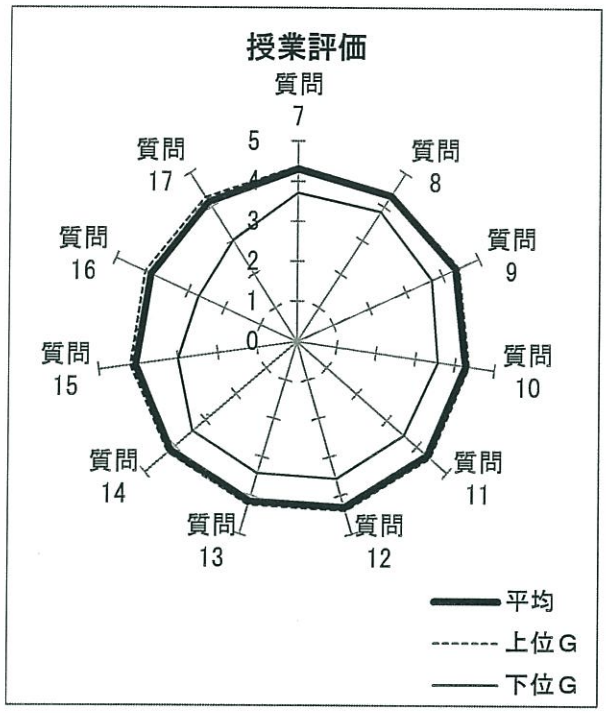
2019 年度担当予定科目名：＿＿＿健康体力学実習＿＿＿＿＿＿

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

この授業は、同時に 3 テーマ―を 2 教室で実施するため、実習中は十分な指導ができないのが悩みである。また、学生自身も時間内に終わらせることに必死で、内容を理解できていない状況が多々見受けられる。来年度は、1 クラスの人数が少ないため、これまでよりも目が行き届くと思われる。また実習後にもグループディスカッションの時間を設けて、得られたデータの理解だけでなく、一歩進んで運動・栄養の面からの健康づくりへの活かし方などについても学習できるような授業を目指していきたい。

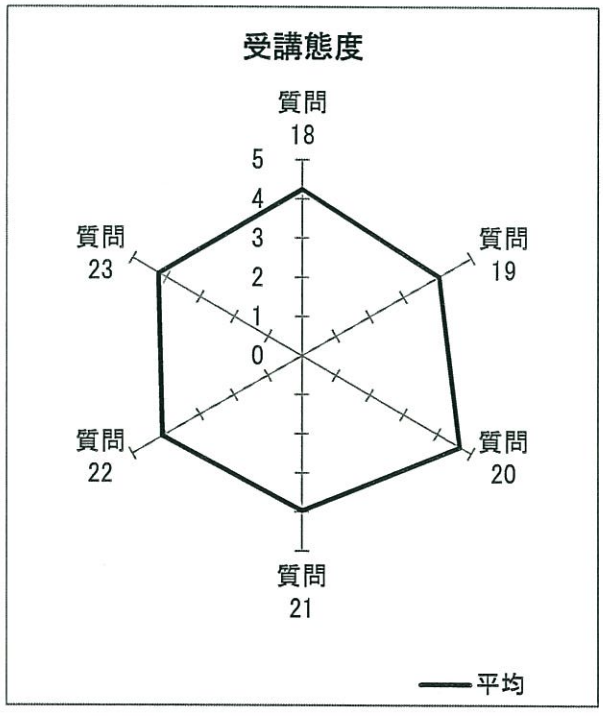
# 科目コード ６２２　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 松永 知恵 栄養教育論Ⅱ




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.3 | 4.4 | 3.7 |
| 質問 8 | 4.3 | 4.4 | 3.9 |
| 質問 9 | 4.4 | 4.5 | 3.7 |
| 質問10 | 4.3 | 4.4 | 3.6 |
| 質問11 | 4.3 | 4.4 | 3.6 |
| 質問12 | 4.3 | 4.4 | 3.6 |
| 質問13 | 4.2 | 4.2 | 3.4 |
| 質問14 | 4.2 | 4.2 | 3.4 |
| 質問15 | 4.1 | 4.2 | 3.0 |
| 質問16 | 4.0 | 4.2 | 2.7 |
| 質問17 | 4.1 | 4.3 | 3.0 |
| 平均 | 4.2 | 4.3 | 3.4 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.3 |
| 質問19 | 4.0 |
| 質問20 | 4.7 |
| 質問21 | 4.0 |
| 質問22 | 4.1 |
| 質問23 | 4.2 |
| 平均 | 4.2 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 松永　知恵 | 栄養教育論Ⅱ | 75 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

授業評価の平均点は良い評価であった。しかしながら、質問15，16，17で大きく差が開いた。昨年度、同じ履修者が「栄養教育論Ⅰ」を履修したが、その際も同じ項目で差が開いていた。下位層への対策は今後もますます増えるのではないかと懸念していたが、残念ながら対策は効果がでなかったようである。この科目は、管理栄養士養成のための専門必修科目であり、到達水準は下げられない。内容は安易に理解できるものでもない。しかも、管理栄養士を目標とする意欲の高い学生にとっては興味深い内容であるが、その意欲は学生によって差が大きく、意欲が低い学生にとっては、興味・関心につながらなかったと思われる。

例年、理解不足の学生の対応を検討してきて、その効果が昨年は出たと思っていたのだが、学年が変わると対応できていなかった。今後も継続して授業の進め方を工夫していき、学生の理解度・満足度を高めたい。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

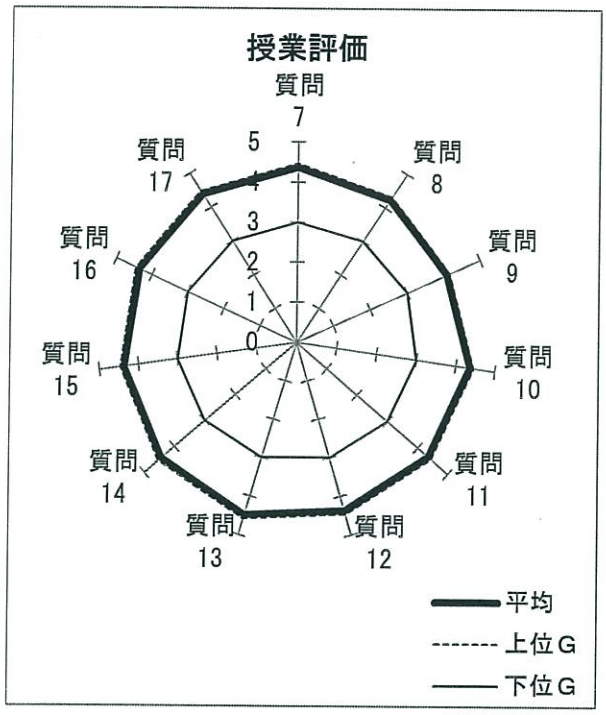
2019年度担当予定科目名：栄養教育論Ⅱ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

学生が授業を理解できているか否かを確認するためにも、テキストだけでなく、配布資料を充実させ、全体の理解度を上げられるようにしたい。また、これまでの評価の気づきも忘れずに、今後も教育内容を充実させ、学生の意欲を高めるような授業運営を工夫したいと考える。今回の結果も今後の授業に反映し謙虚に学生への教育に励みたい。

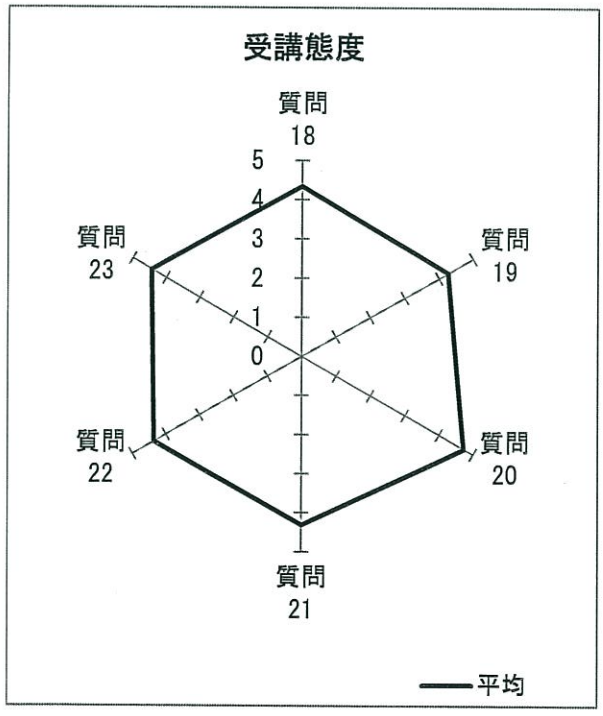
# 科目コード ６２４　（２０１８年度 前期）

## 健康生活学部 食生活健康学科 藤 希望 臨床栄養学実習




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 質問 8 | 4.2 | 4.3 | 3.0 |
| 質問 9 | 4.1 | 4.2 | 3.0 |
| 質問10 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 質問11 | 4.3 | 4.4 | 3.0 |
| 質問12 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 質問13 | 4.5 | 4.6 | 3.0 |
| 質問14 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 質問15 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 質問16 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 質問17 | 4.4 | 4.5 | 3.0 |
| 平均 | 4.3 | 4.4 | 3.0 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.3 |
| 質問19 | 4.3 |
| 質問20 | 4.7 |
| 質問21 | 4.3 |
| 質問22 | 4.4 |
| 質問23 | 4.4 |
| 平均 | 4.4 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 藤　希望 | 臨床栄養学実習 | 76 名 |

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

本科目は今年度初めて担当した。学生にとっては、2 年生の食事設計実習、応用栄養学実習で献立作成について学んでいるため、3 回目の献立作成の授業となるが、様々な疾病を持った患者を対象とした食事を考える授業であり、より専門的な知識が要求される科目である。また、15 回の授業の中で、7 食種 8 種類の献立を立てて調理実習を行うため、随分と過密なスケジュールとなっていた。それだけ大変な科目の評価としては、比較的良かった方ではないかと感じる。評価の中で、平均点が低かった項目としては、「教員の授業時間厳守」、「教員の話し方」、「教員の説明のわかり易さ」が挙げられた。これらの原因として、先にも記述したように過密スケジュールでであったことが考えられる。それにより、献立の添削に時間がかかり、授業が多少延長した回があったり、一人ひとりの添削にかける時間に余裕がなく、大まかな点しかアドバイスができなかったりした。また、学生が自分で考えることを優先させ、具体的な細かいアドバイスを控えていたため、説明がわかりにくいと感じた学生もいたのではないだろうか。

過密スケジュールを解消するために、授業で扱う献立の種類を減らすことは簡単であるが、将来学生が管理栄養士として病院で勤務する際には、「習っていない」では済まされないため、安易に減らすことはできない。しかし、学生自身に考えさせることは大切にしつつ、学生が理解しやすいように理解度に応じた指導を行うべきであったと思う。初めての授業で戸惑うことも多かった上、76 名分の献立を何度も添削し、休日や出張先からもメールで対応し、合計 1200 個以上の献立を添削する中で、授業の進め方を考慮する余裕がなくなっていたのも事実である。

Ⅱ．2019 年度に向けての取り組み

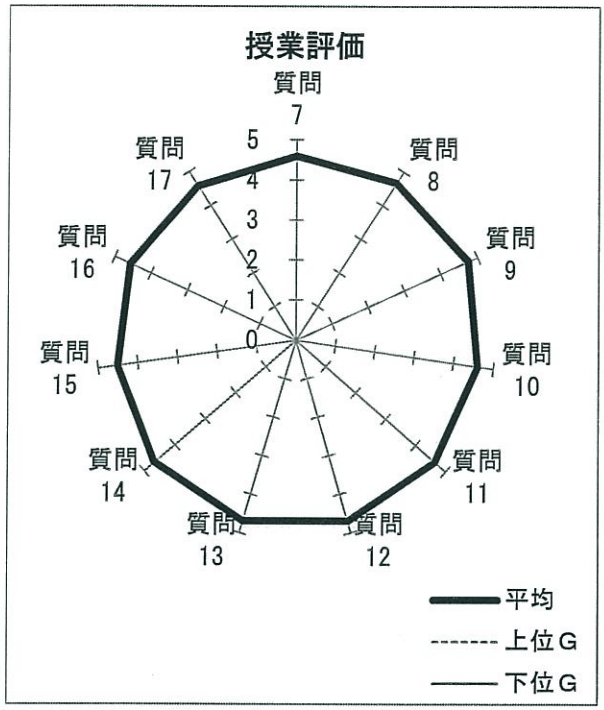
2019 年度担当予定科目名： 臨床栄養学Ⅱ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

来年度は、本科目を担当する予定はないが、本科目の治療食を考える上でも重要な「臨床栄養学Ⅱ」を担当する予定である。疾病の成り立ちや栄養食事療法など、疾患に関する専門知識が多い科目となるため、本科目で治療食が立てやすくなるよう、疾患に対する理解と、栄養食事療法についてしっかり理解できるよう授業を行っていきたい。また、臨床栄養学Ⅱ、臨床栄養学実習どちらも同時期の開講となるため、担当教員と協力し、授業をタイアップさせながら、学生が理解を深められるように工夫していきたい。

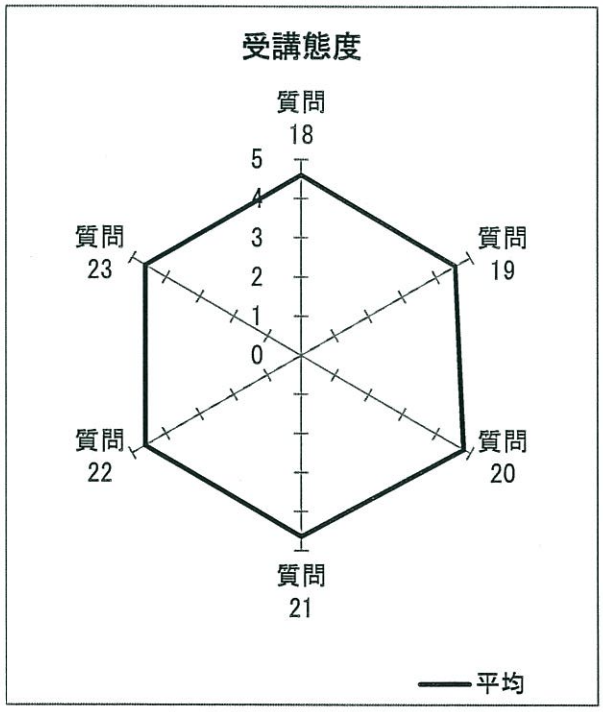
# 科目コード ６２６　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 山田 加奈子 公衆栄養学(Aクラス)




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |
| 質問 8 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 質問 9 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問10 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |
| 質問11 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |
| 質問12 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 質問13 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 質問14 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 質問15 | 4.5 | 4.5 | #DIV/0! |
| 質問16 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |
| 質問17 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |
| 平均 | 4.6 | 4.6 | #DIV/0! |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.6 |
| 質問19 | 4.6 |
| 質問20 | 4.8 |
| 質問21 | 4.6 |
| 質問22 | 4.6 |
| 質問23 | 4.6 |
| 平均 | 4.6 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 山田加奈子 | 公衆栄養学 | 35 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

A、Bクラスによって特に評価が分かれたのは質問15授業の理解度、16興味・関心・意欲の引き出し、17新しい知識・技術・理論の習得への有用性の3点であった。質問15、16については以前より評価が低いところがあり、改善すべき最優先事項であると考える。

今回の評価で明らかになったことは、教員の話し方や内容、機材の効果的使用やわかりやすさ、配慮について等は上位G、下位Gの差は大きくなく、また評価自体もそこまで低くはない。それよりも学生本人の「理解度、意欲」の評価に問題があり、また授業を理解できた者、そうでない者の差がクラス間にあることが伺える。特に15－16の評価が低かったのはBクラスで、理解度や意欲が低い学生がBクラスに多数いるように思われるが、逆に自身のことを理解できている学生が多いのがBクラスで、Aクラスには理解したつもりになっている学生が多い、との見方もある。まずはこの箇所について改善する必要であるが、学生らの意欲を向上させるためには、学生自身がまずは授業の理解度（質問15）を高めなければならない。そのため取り組むべき最優先事項を質問15の改善とし、来年度は取り組んでいきたい。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

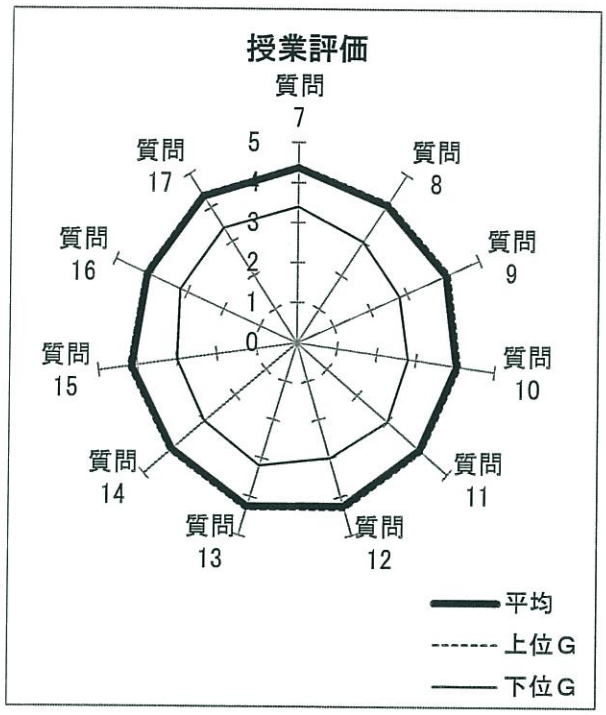
2019年度担当予定科目名：公衆栄養学

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

学生の理解度を高めるためには、まず学生が理解し難い項目等を洗い出していかなくてはならない。そのためには定期的なミニテストを実施し、学生にフィードバックする必要がある。これを繰り返していくことで、学生は自分の弱い箇所を見つけ出し、教員側も、学生の得意不得意箇所を理解することができ、それを授業に反映することで、学生の理解度の向上に繋がると考える。ミニテストについては学内ポートフォリオを活用し、学生がいつでもアクセスできるようにしたいと考える。

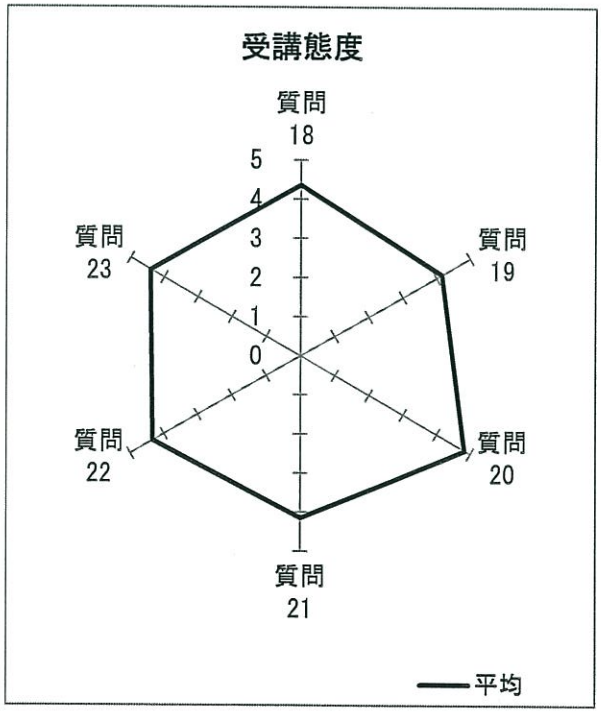
# 科目コード ６２７　（２０１８年度 前期）

健康生活学部　食生活健康学科　小川　彰子、尾﨑　美由紀　給食経営管理実習




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.4 | 4.4 | 3.4 |
| 質問 8 | 4.1 | 4.2 | 3.0 |
| 質問 9 | 4.1 | 4.2 | 2.8 |
| 質問10 | 4.0 | 4.1 | 2.8 |
| 質問11 | 4.1 | 4.2 | 3.0 |
| 質問12 | 4.2 | 4.3 | 3.0 |
| 質問13 | 4.3 | 4.3 | 3.2 |
| 質問14 | 4.1 | 4.2 | 3.0 |
| 質問15 | 4.2 | 4.2 | 3.0 |
| 質問16 | 4.1 | 4.2 | 3.2 |
| 質問17 | 4.3 | 4.4 | 3.4 |
| 平均 | 4.2 | 4.3 | 3.1 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.4 |
| 質問19 | 4.2 |
| 質問20 | 4.8 |
| 質問21 | 4.1 |
| 質問22 | 4.3 |
| 質問23 | 4.4 |
| 平均 | 4.4 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 小川彰子 | 給食経営管理実習 | 75名 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

・班単位の実習であるため、時間、内容の理解度などに差があると思われる。

・成績下位者の点数が低いのは、理解度の不足、献立グループ内での役割の重さなどの問題があるのではないか。成績下位者への対応が難しかった。

・講義、グループ活動、実習、小テストの組み合わせで授業を行ったが、内容の分量が多くなるのは仕方がないとして、うまく整理して進める方法を考える必要がある。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：給食経営管理実習

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

・実習反省で来年に向けて変更、充実させることを決めた。

グループ編成をする際に多くの教員の意見を聴くなどして、グループ間の差が出ないよう工夫する。

生鮮食料品の前日納品をなくし、学生が実践に即した実習ができるようにする。

機械器具の試運転をさらに丁寧に行う。

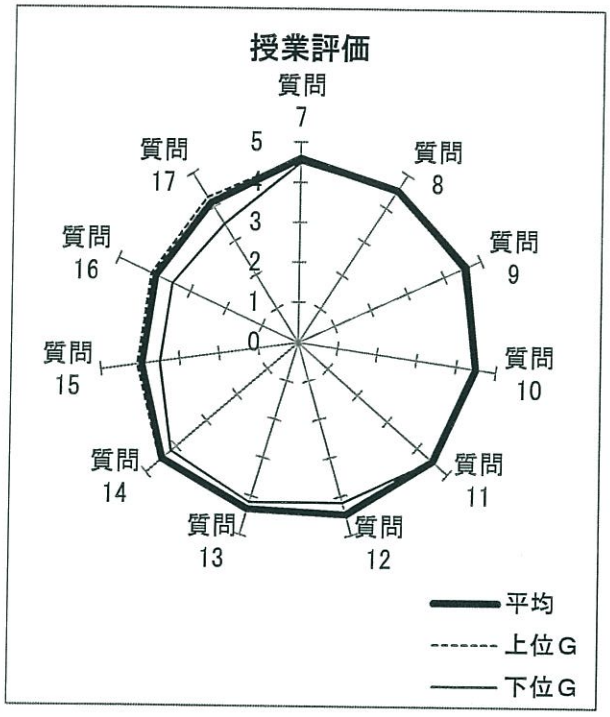
学生の役割分担に目を配る。

・献立内容、グループ活動など自主的にできるような時間を多く当て、実習に興味を持たせる。

・次学年は学生数が少ないため、臨機応変な実習変更が必要になると考える。

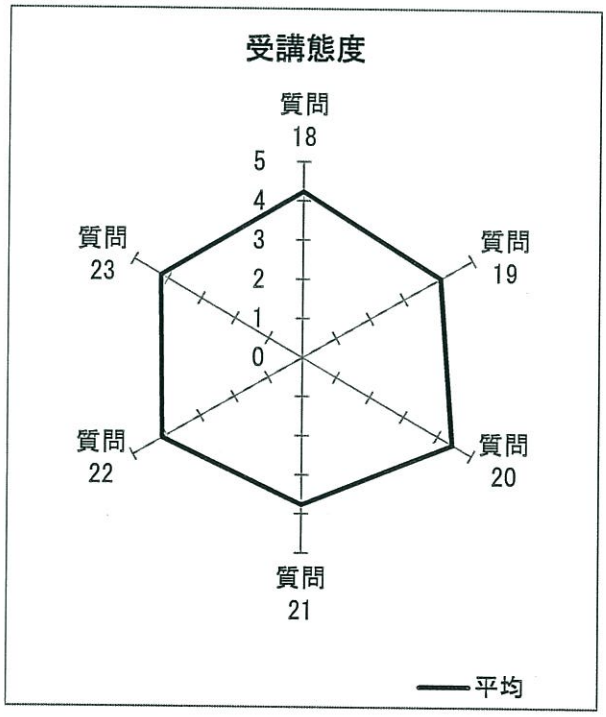
# 科目コード ６３２　（２０１８年度 前期）

健康生活学部　食生活健康学科　山田 加奈子　公衆栄養学(Bクラス)




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.6 | 4.6 | 4.5 |
| 質問 8 | 4.5 | 4.5 | 4.5 |
| 質問 9 | 4.6 | 4.6 | 4.5 |
| 質問10 | 4.5 | 4.5 | 4.5 |
| 質問11 | 4.5 | 4.5 | 4.5 |
| 質問12 | 4.5 | 4.5 | 4.2 |
| 質問13 | 4.3 | 4.4 | 4.2 |
| 質問14 | 4.5 | 4.5 | 4.2 |
| 質問15 | 4.0 | 4.1 | 3.5 |
| 質問16 | 4.0 | 4.1 | 3.5 |
| 質問17 | 4.1 | 4.3 | 3.5 |
| 平均 | 4.4 | 4.4 | 4.1 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.2 |
| 質問19 | 4.1 |
| 質問20 | 4.4 |
| 質問21 | 3.8 |
| 質問22 | 4.1 |
| 質問23 | 4.2 |
| 平均 | 4.1 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 食生活健康学科 | 山田加奈子 | 公衆栄養学 | 35 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

A、Bクラスによって特に評価が分かれたのは質問15授業の理解度、16興味・関心・意欲の引き出し、17新しい知識・技術・理論の習得への有用性の3点であった。質問15、16については以前より評価が低いところがあり、改善すべき最優先事項であると考える。

今回の評価で明らかになったことは、教員の話し方や内容、機材の効果的使用やわかりやすさ、配慮について等は上位G、下位Gの差は大きくなく、また評価自体もそこまで低くはない。それよりも学生本人の「理解度、意欲」の評価に問題があり、また授業を理解できた者、そうでない者の差がクラス間にあることが伺える。特に15－16の評価が低かったのはBクラスで、理解度や意欲が低い学生がBクラスに多数いるように思われるが、逆に自身のことを理解できている学生が多いのがBクラスで、Aクラスには理解したつもりになっている学生が多い、との見方もある。まずはこの箇所について改善する必要であるが、学生らの意欲を向上させるためには、学生自身がまずは授業の理解度（質問15）を高めなければならない。そのため取り組むべき最優先事項を質問15の改善とし、来年度は取り組んでいきたい。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

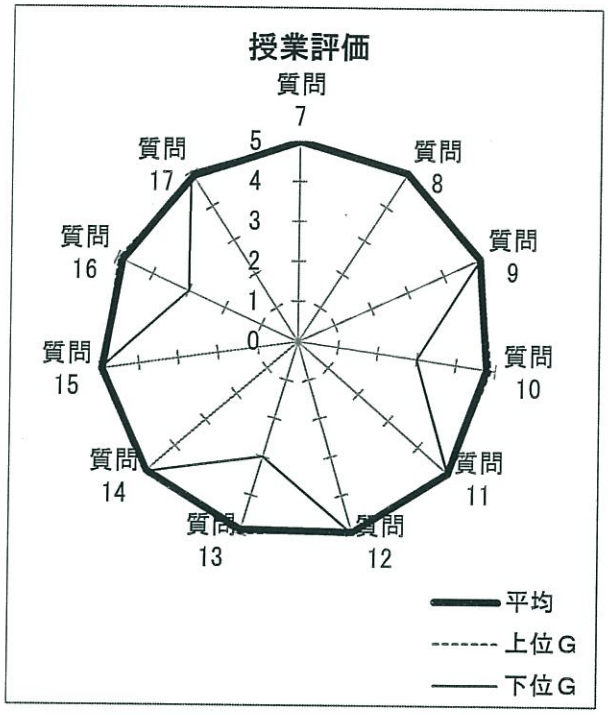
2019年度担当予定科目名：公衆栄養学

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

学生の理解度を高めるためには、まず学生が理解し難い項目等を洗い出していかなくてはならない。そのためには定期的なミニテストを実施し、学生にフィードバックする必要がある。これを繰り返していくことで、学生は自分の弱い箇所を見つけ出し、教員側も、学生の得意不得意箇所を理解することができ、それを授業に反映することで、学生の理解度の向上に繋がると考える。ミニテストについては学内ポートフォリオを活用し、学生がいつでもアクセスできるようにしたいと考える。

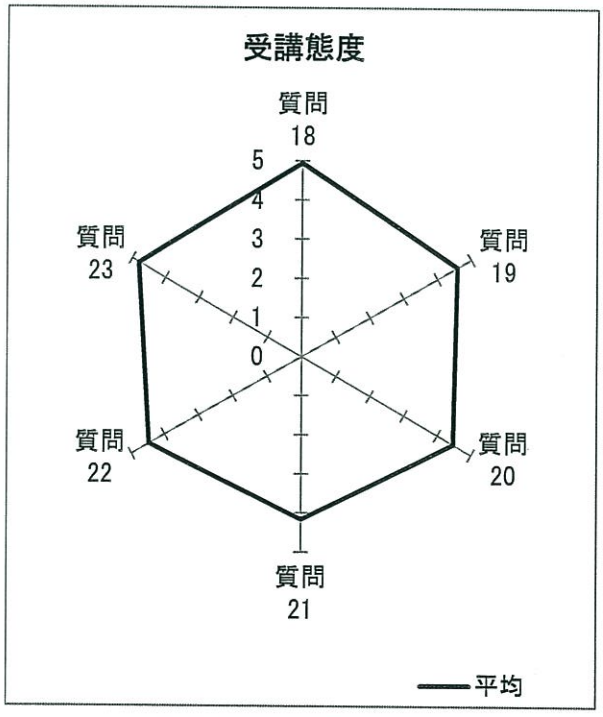
# 科目コード ６５３　（２０１８年度 前期）

健康生活学部　食生活健康学科　阿部　麗　健康・スポーツ実技Ⅱ（現人2）




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |
| 質問 8 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |
| 質問 9 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |
| 質問10 | 4.8 | 4.9 | 3.0 |
| 質問11 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |
| 質問12 | 4.9 | 4.9 | 5.0 |
| 質問13 | 4.9 | 5.0 | 3.0 |
| 質問14 | 4.9 | 4.9 | 5.0 |
| 質問15 | 4.9 | 4.9 | 5.0 |
| 質問16 | 4.8 | 4.9 | 3.0 |
| 質問17 | 4.9 | 4.9 | 5.0 |
| 平均 | 4.9 | 5.0 | 4.5 |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.9 |
| 質問19 | 4.6 |
| 質問20 | 4.5 |
| 質問21 | 4.2 |
| 質問22 | 4.5 |
| 質問23 | 4.8 |
| 平均 | 4.6 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 現日・人関 | 阿部　麗 | 健康・スポーツ実技Ⅱ | 24 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

授業評価の平均値は、4.9と概ね良好な評価であった。高評価の要因としては、質問18の平均値4.9から見て取れるように、学生が主体的に受講してくれたことが大きいと考えている。

上位Ｇにおいては、平均値5.0と良好な評価であったが、下位Ｇにおいては、4.5とやや低い値を示した。下位Ｇの度数は1であったが、質問10,13,16において、「どちらともいえない」の評価であったため、真摯に結果を受け止めたい。

受講態度の項目においては、質問19において、「どちらともいえない」の「そう思わない」が16.4%であった。今後は、全体に到達目標が浸透するよう、授業の始まりだけではなく、途中や終わりにポイントの確認や振り返りを入れたい。また、質問21においては、「どちらともいえない」、「どちらかといえばそう思わない」、が33.1%、質問22においては、「どちらともいえない」が15.8%であった。この２つの質問は、「課題等への取り組み」、「予習・復習」に関する項目である。スキルテストの内容を早期に伝え練習を促す等、課題に対する意識を高めていきたい。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

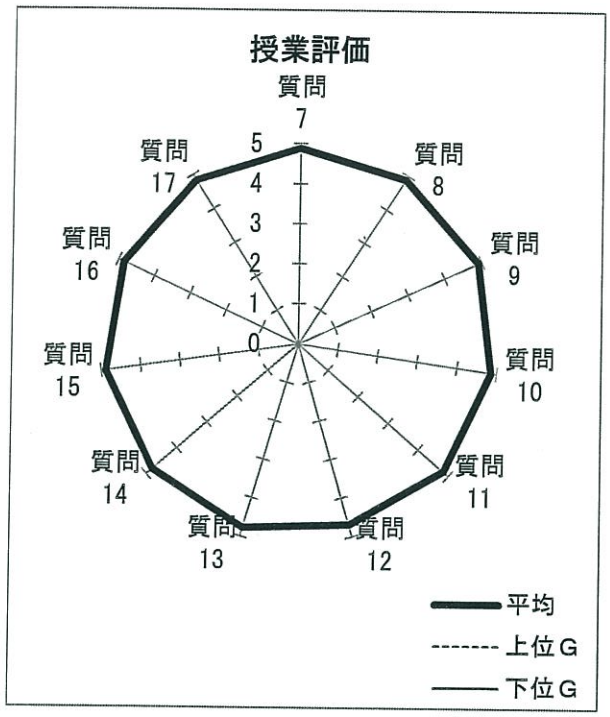
2019年度担当予定科目名：　健康・スポーツ実技Ⅱ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

Ⅰ．分析と評価の下線部について取り組んでいきたい。

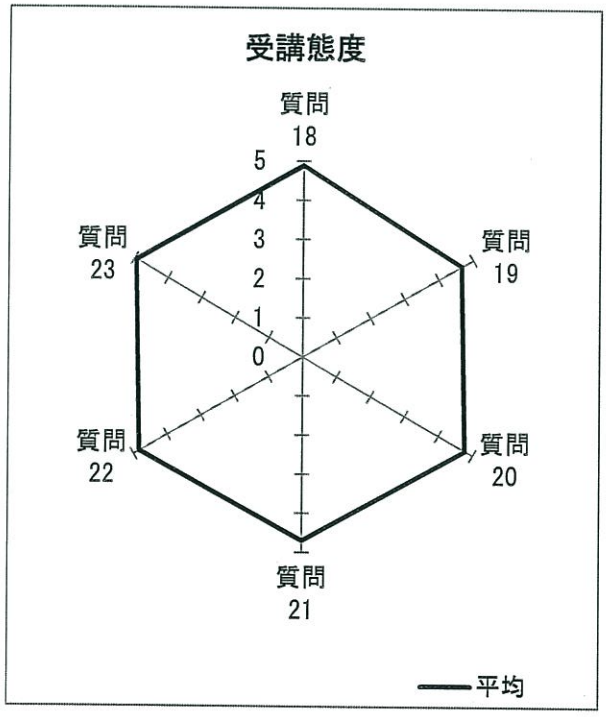
# 科目コード ６５４　（２０１８年度 前期）

健康生活学部 食生活健康学科 阿南 祐也 健康・スポーツ実技Ⅱ（子ども2）




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問 8 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問 9 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問10 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問11 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問12 | 4.7 | 4.7 | #DIV/0! |
| 質問13 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問14 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 質問15 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問16 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問17 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |
| 平均 | 4.8 | 4.8 | #DIV/0! |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.9 |
| 質問19 | 4.7 |
| 質問20 | 4.8 |
| 質問21 | 4.7 |
| 質問22 | 4.8 |
| 質問23 | 4.9 |
| 平均 | 4.8 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 健康生活学部 | 子ども学科 | 阿南　祐也 | 健康・スポーツ実技Ⅱ | 39名 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

本授業の到達目標は、運動・スポーツをより楽しむための技術習得やスキル向上を通して、運動・スポーツを健康行動の１つとして選択する姿勢を身につけること、技術や戦術に関するディスカッションを行い、他者と協働する態度を身につけることであった。内容は、フライングディスク（アルティメット)、バドミントン、ソフトバレーボール、卓球であった。授業評価は例年通りおおむねポジティブな評価を得ることができた。

毎回の授業でテーマを設定して実施した。スポーツが好きな学生、あまり好きでない学生もいたが、各種目で「できなかったこと」が「できるようになる」体験や友人とスポーツを楽しむことを通して、スポーツに対する認識を変容できたのではないかと考える。また、「スポーツ“を”学ぶ」だけでなく「スポーツ“で”学ぶ」という内容にできたのではないかと考える。将来、健康づくりのための行動の１つとしてスポーツを選択してもらえると期待する。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

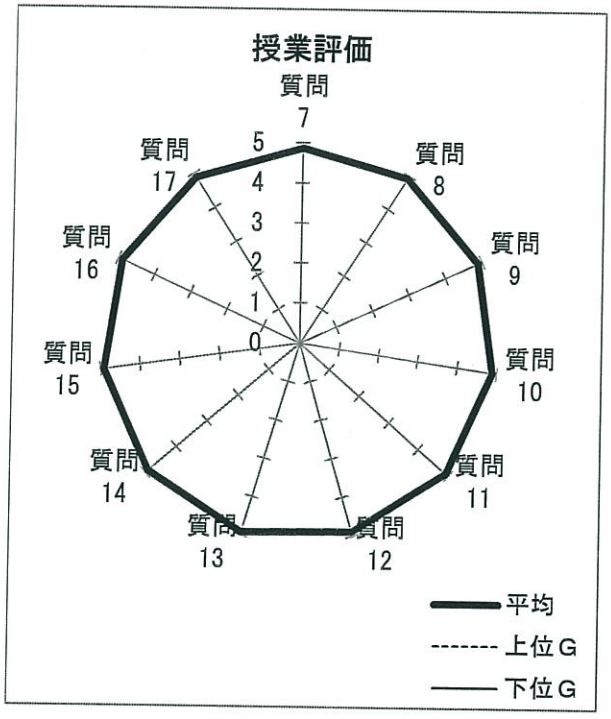
2019年度担当予定科目名：健康・スポーツ実技ⅠⅡ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

来年度以降も、運動・スポーツをより楽しむための技術習得やスキル向上ができるように教材や提示方法を工夫していきたい。運動・スポーツは必ず実施しなければならないものではないが、実施することで充実した生活につながる可能性が高いので、授業外でも運動・スポーツを楽しむ機会を増やせるように体育館の整備やスポーツイベント開催などを積極的に行っていきたい。

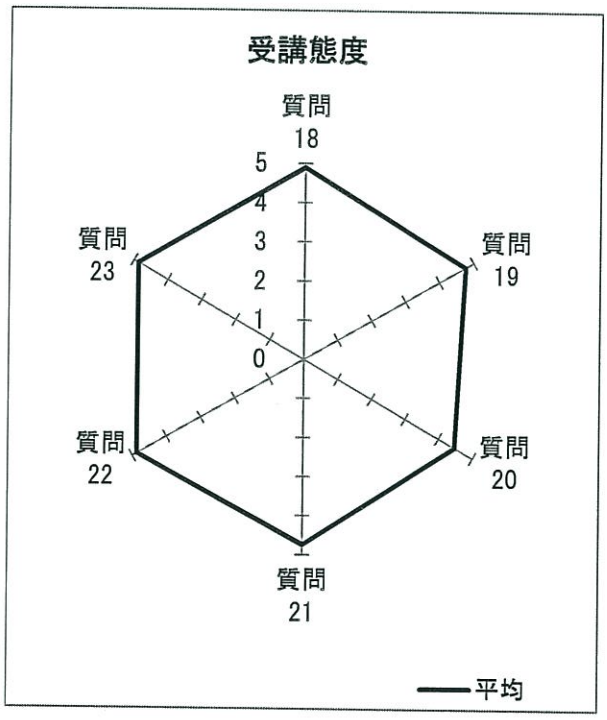
# 科目コード ６６７　（２０１８年度 前期）

健康生活学部　食生活健康学科　阿部　麗　健康･スポーツ実技Ⅱ(英語2)




| 質問項目 | 平均 | 上位Ｇ | 下位Ｇ |
|---|---|---|---|
| 質問 7 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問 8 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問 9 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問10 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問11 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問12 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問13 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問14 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問15 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問16 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 質問17 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |
| 平均 | 4.9 | 4.9 | #DIV/0! |

質問 7 ： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 ： 教員の授業時間遵守
質問 9 ： 教員の話し方
質問10 ： 教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11 ： 教員の説明のわかり易さ
質問12 ： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13 ： 質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14 ： 学生の理解度の確認と授業への反映
質問15 ： （自分は）授業を理解できたと思うか
質問16 ： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17 ： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性




| 質問項目 | 平均 |
|---|---|
| 質問18 | 4.9 |
| 質問19 | 4.8 |
| 質問20 | 4.5 |
| 質問21 | 4.7 |
| 質問22 | 4.9 |
| 質問23 | 4.9 |
| 平均 | 4.8 |

質問18 ： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19 ： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20 ： 欠席回数（０回→５ポイント、１回→４、２回→３…）
質問21 ： 授業の予習・復習をおこなったか
質問22 ： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23 ： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

| 学　部　名 | 学　科　名 | 担当者名 | 科　目　名 | 履修者数 |
|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 英語 | 阿部　麗 | 健康・スポーツ実技Ⅱ | 39 |

2018年度前期授業評価アンケート集計結果 ： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

Ⅰ．分析と評価

授業評価の平均値は、4.9と概ね良好な評価であった。高評価の要因としては、質問18の平均値4.9から見て取れるように、学生が主体的、積極的に受講してくれたことが大きいと考えている。また、授業前に各自の好きなスポーツで身体を動かす学生が多く、全体的にスポーツに親しみを感じている学生が多い印象であった。

受講態度の項目においては、質問19の項目において、「どちらともいえない」が7.9%であった。授業内容や到達目標について、授業の始まりに提示するだけでなく、途中や終わりにポイントの確認や振り返りを入れることで改善を図りたい。また、質問21の「予習・復習」に関して4.7と全体の数値に対しやや低い値を示した。この項目は、例年、学科に関係なく他項目に比べやや低い値を示す項目であるが、今年度は「どちらともいえない」が5.3%であったものの、「どちらかといえばそうは思わない、そうは思わない」が0%であった。各クラスのレディネスもあるが、励みとなる結果であった。引き続き、トレーニング室の利用の声掛けや、課題の習熟度に合わせて、スキルや習得のための練習方法を提示し、予習・復習の意欲喚起を促したい。

Ⅱ．2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：　健康・スポーツ実技Ⅱ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

Ⅰ．分析と評価の下線部について取り組んでいきたい。